(1) 從來ノ非課稅所得ニ郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金利子ヲ追加ス

(2) 課稅セラレタル法人ヨリ受ケル配當金、賦課金、賞與金及外國ニ於ケル資產、營業又ハ職業ノ所得ヲ除外ス

○大正九年六月勅令第二百二十六號ヲ以テ所得稅法第十九條ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ製造業ノ種類ヲ定ム

○大正九年七月法律第十二號ヲ以テ所得稅法施行ニ關スル法律ヲ發布シ同年八月一日ヨリ施行ス

1. 所得稅法ハ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行セサルコトヲ明ニス

2. 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店ヲ有スル法人ニハ所得稅法第一種甲及丁第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅法ニヨル所得稅ヲ課セス

3. 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニハ所得稅ヲ免除ス

○大正十年三月法律第十五號ヲ以テ所得稅法施行ニ關スル法律ヲ改正シ同年四月一日ヨリ施行ス其要領次ノ如シ

1. 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人カ施行地法人ト合併シ合併法人カ稅法施行地ニ本店ヲ有スル場合ニ於テハ補塡免稅及納稅義務繼承ノ規定ヲ準用ス

2. 臺灣ニ所得稅法(第三種)施行ノ結果臺灣ニ於ケル資產、營業及職業ヨリ生スル所得ニ對シテハ稅法第十八條ノ六ノ規定ヲ適用セサルコトトナレリ又臺灣ニ住所及一年以上ノ居所ヲ有スル個人ノ所得ニハ第二種乙及第三種ノ所得稅ヲ課セス

3. 稅法施行地ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ臺灣ニ於テ第二種所得ト第三種所得トシテ課稅セラレタルモノニハ第三種所得トシテ課稅セス

○大正十年四月法律第六十六號ヲ以テ住宅組合法ヲ制定シ同法中ニ住宅組合ニ合併シ住宅組合ノ居所ヲ有スル個人ノ所得ニハ所得稅ヲ課セサル旨ヲ規定シ同年七月十日ヨリ施行ス

○大正十一年三月法律第二十七號ヲ以テ所得稅法施行ニ關スル法律ヲ改正シ同年四月一日ヨリ施行ス(樺太ニ於ケル所得稅令施行ニ依リ樺太ニ對シテモ臺灣ト同樣ナル取扱ヲ爲スコトニ改ム)

○大正十一年四月法律第四十五號ヲ以テ信託法制定ニ伴ヒ信託財產ヨリ生スル所得ニ付テハ所得稅法ニ於テ信託財產ヲ有スルモノト看做シ所得稅ヲ課スルコトトシ又信託ノ受託者ニ對シ信託ノ計算書ヲ提出スル義務アルコトヲ定メ大正十二年一月一日ヨリ施行ス

○大正十二年三月法律第八號ヲ以テ第二種所得中銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金トアルヲ銀行預金ニ改メ又所得決定ニ付調査委員會ノ閉會後ノ所得ニ脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヘカリシ翌年ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ハ所得審査委員會ノ議決ニ依リ政府ハ之ヲ對シテ會社ノ行爲ニ付改正等ノ規定ヲ設ケ保全會社ノ行爲ニ否認シ得ル規定ヲ設ケ又ハ會社ニ看做シ配當金ヲ留保金ト看做シ追加決定ヲ爲シ得ルノ規定ヲ設ケ保全會社ニ對シテモ政府ハ決定ヲ爲シ得ル期限ヲ一定シ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正十二年三月法律第二種所得ト第一種所得トノ合算ニ關スル規定ヲ改正シ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正十二年四月法律第四十一號ヲ以テ所得稅法第十條ノ二ノ規定ヲ改正シ同年七月一日ヨリ施行ス

○大正十二年四月法律第四十二號ヲ以テ產業組合中央金庫法ヲ制定シ同法中ニ產業組合中央金庫ニハ所得稅法中社債ニ關スル規定ヲ準用スル旨ヲ規定ス

○大正十三年七月法律第六號ヲ以テ外國船舶ノ所得稅免除ニ關スル法律ヲ制定シ日本ニ住所ヲ有セサル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船籍ヲ有スル船舶ノ所得ニ付所得稅ヲ免除ス但シ其ノ船籍國カ日本船舶ノ所得ニ付同樣ノ免除ヲ爲ササル場合ニ於テハ免除セサル旨ヲ規定シ公布ノ日ヨリ施行ス

○大正十三年七月法律第十六號ヲ以テ復興貯蓄債券ノ利子ニハ所得稅ヲ課セサル旨ヲ規定シ公布ノ日ヨリ施行ス

○大正十四年三月法律第二十八號ヲ以テ重要輸出品工業組合法ヲ制定シ同法中ニ重要輸出品工業組合及同聯合會ニハ所得稅ヲ課セサル旨ヲ規定ス

○大正十四年三月法律第二十七號ヲ以テ輸出組合法ヲ制定シ同法中ニ輸出組合ニハ所得稅ヲ課セサル旨ヲ規定ス

○大正十五年三月法律第八號ヲ以テ所得稅法中現行通リ改正シ大正十五年四月一日ヨリ施行ス第三種所得ニ付テハ大正十五年分所得稅ヨリ適用ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 稅率、納期別掲ノ通リ

2. 第一種所得

(1) 總テノ法人ノ留保所得ニ對シ累進的課稅ヲ爲スノ制度ヲ廢止シ又留保所得ト配當所得トノ區分ヲ爲サスシテ法人ノ普通所得(各事業年度ノ所得總額ヨリ非課稅所得ヲ控除シタルモノ)ニ對シ百分ノ五ノ比例稅ヲ課ス

(2) 留保所得ノ課稅廢止ノ結果法人カ積金ヲ減少シタル場合ニ於テ其ノ減少額ヲ塡補スルニ至ル迄爾後ノ留保金ニ對シ課稅セサル制度ハ自然廢止ト爲ス

(3) 同族會社ニ於テ一定ノ程度ヲ超ヘテ留保シタル所得ハ之レヲ株主社員ニ配當シタルモノト看做シタル制度ヲ變更シテ一定ノ程度ヲ超ヘタル留保ニ對シ百分ノ十乃至三十ノ累進稅率ヲ以テ算出シタル稅額ヲ當該同族會社ノ普通所得ニ對スル稅率ニ加算シテ徵收スルコトトシ又同族會社ノ所得計算上ニ於テ所得稅累進賦ノ目的アリト認ムル場合ニ於ケル認定課稅ノ範圍ヲ擴張スルト同時ニ此等ノ規定ノ活用ヲ期スル方針ヲ以テ如上ノ同族會社ニ對シテハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラス政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトトス

(4) 第一種所得稅ト第二種所得稅トノ重複課稅ヲ避クル爲第一種所得稅中ヨリ其ノ事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅額ヲ控除スルコトニス

(5) 法人ノ普通所得ニ對シ百分ノ五ノ比例稅ヲ課シ尙之ヲ配當シタル際個人ノ綜合課稅ヲ爲スノ權衡上法人ノ清算所得ヲ計算スル場合ニ於テ殘餘財產價格中ヨリ積立金ヲ以テ成ル部分ヲ控除セサルコトトス

(6) 清算所得ニ對スル稅率百分ノ七・五ヲ百分ノ十ニ改ム但シ積立金ヨリ成ル分及免稅所得ヨリ拂込ミタル保險料ハ年額二百圓ヲ限リ所得ヨリ控除スルコトニ定メ大正十三年分所得稅ヨリ適用ス

○大正十二年四月法律第四十二號ヲ以テ產業組合中央金庫法ヲ制定シ同法中ニ產業組合中央金庫ニハ所得稅法中社債ニ關スル規定ヲ準用スル旨及產業組合中央金庫ノ發行スル產業債券

ヨリ成ル分ハ百分ノ五トス之レ普通所得ニ對スル稅率即チ百分ノ五ヲ輕減シタル結果トス

(7) 外國法人ニ對スル普通所得(從來戻ノ所得)ノ稅率百分ノ七·五ヲ百分ノ十ト改ム

3. 貸付信託ノ信託財産ニ付ニ重課稅ヲ避クル爲信託會社ノ納ムル第二種所得稅額ハ其ノ信託ノ利益ニ付受益者ノ納ムヘキ第二種所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

4. 第三種所得

(1) 課稅最低限八百圓ヲ千二百圓ニ引上ク

(2) 第三種所得ノ稅率中千二百圓以下ノ金額ニ對スル分ヲ百分ノ〇·八ト改ム

(3) 從來ノ豫算課稅ヲ改メ特殊ノ場合ヲ除クノ外前年實績ヲ基礎トシテ算定ス
從テ所得減損ノ場合ニ於ケル更訂ハ從來ノ四分ノ一以上ヲ二分ノ一以上減損シタル場合ニ限ルコトニ改ム

(4) 勤勞所得ノ控除(稅法第十五條ノ控除)ハ所得總額六千圓以下ニ屬スル金額ニ付二割、六千圓ヲ超ユル分ニ屬スル金額ニ付一割ト改ム

(5) 扶養家族ノ控除(稅法第十六條ノ控除)ハ從來ノ所得金額ニ依ル各級區分ヲ廢止シ所得三千圓以下全部ニ對シ一人ニ付百圓ト改ム

(6) 山林所得ノ稅額ハ其ノ所得金額ヲ五分シタルモノニ稅率ヲ適用シタル金額ノ五倍トスルコトニ算定方ヲ改ム(山林以外ノ所得ト區分シテ稅率ヲ適用スルコトハ從來ノ通リ)

(7) 第三種所得ノ決定時期八月ヲ五月ト改メ申告時期四月中ヲ三月十五日迄ト改ム

(8) 第三種所得稅ノ納期九月、十一月、一月、三月ヲ七月、十月、一月、三月ニ改ム

(9) 所得調査委員會ニ於テ乙種ノ資本利子金額(準標稅課稅ノ稅益敎益)ヲモ決定スルコトトシ調査委員ノ選舉資格者中ニ營業敎益稅ノ納稅者ヲ加フルコトトス

(10) 所得調査委員ノ選舉區域變更ノ場合ニ於テ必ス其ノ翌月ニ調査委員ヲ改選スルノ制度ヲ改メ納稅者數ニ二割以上ノ增減アル場合ニ限リ適當ノ時期ニ於テ之ヲ改選スルコトトス

5. 同族會社ニ於テ留保シタル所得ニ對シ累進課稅ヲ受ケタル場合ニ異議アルトキハ所得金額ノ異議ニ準シ審査請求、訴願、訴訟ヲ認ムルコトトス從テ舊法ニ於テ適當ノ留保ヲ配當ト看做ス場合ニ於テ審査委員會ニ諮ルノ制度ハ自然變更セラルヘシ

6. 大正十五年分第三種所得ノ申告期決定ノ時期及納期ハ從前ノ通トス

地　租

(明治十七年三月第七號布告地租條例)

○稅　率

宅　地……地價百分ノ二箇半

田　畑……地價百分ノ五箇

其他ノ土地……地價百分ノ五箇半

北海道
- 田畑……地價百分ノ三箇
- 其他ノ土地(宅地ヲ除ク)……地價百分ノ四箇

東京府下伊豆七島、小笠原島……當分從前ノ通

○地價ト稱スルハ土地臺帳ニ揭ケタル價格ヲ謂フ

○納　期

1 宅　地

第一期　其年七月一日ヨリ七月三十一日限……地租額二分ノ一

第二期　翌年二月一日ヨリ二月三十一日限……地租額二分ノ一

2 田

第一期　其年十二月十六日ヨリ翌年一月十五日限……地租額四分ノ一

第二期　翌年二月一日ヨリ二月末日限……地租額四分ノ一

第三期　翌年三月一日ヨリ三月三十一日限……地租額四分ノ一

第四期　翌年五月一日ヨリ五月三十一日限……地租額四分ノ一

3 其他ノ土地

第一期　其年九月一日ヨリ九月三十日限……地租額二分ノ一

第二期　其年十二月一日ヨリ十二月三十日限……地租額二分ノ一

○地租條例第十二條第二項ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期(明治四十四年四月勅令第九十二號)

北海道

1 宅　地

第一期　其年七月一日ヨリ八月三十一日限……地租額二分ノ一

第二期　翌年一月十日ヨリ二月末日限……地租額二分ノ一

2 其他ノ土地

第一期　其年十月一日ヨリ十一月三十日限……地租額二分ノ一

第二期　翌年四月一日ヨリ五月三十一日限……地租額二分ノ一

鹿兒島縣大島郡

十島村　翌年五月一日ヨリ八月三十一日限……地租額全部

其他ノ各村　翌年五月一日ヨリ五月三十一日限……地租額全部

沖繩縣

那覇市、首里市、島尻郡、中頭郡、國頭郡

1 宅地、田　　其年八月一日ヨリ八月三十一日限……地租額全部

2 其他ノ土地　翌年五月一日ヨリ五月三十一日限……地租額全部

宮古郡、八重山郡

宮古郡平良村字鹽川、仲筋、水納

八重山郡八重山村字波照間、與那國

翌年五月一日ヨリ七月三十一日限……地租額全部

其他ノ地方

1 宅地　翌年三月一日ヨリ三月三十一日限……地租額全部

2 田　其年六月一日ヨリ六月三十日限……地租額全部

3 畑

第一期　其年六月一日ヨリ六月三十日限……地租額二分ノ一

第二期　翌年五月一日ヨリ五月三十一日限……地租額二分ノ一

4 其他ノ土地　翌年五月一日ヨリ五月三十一日限……地租額全部

東京府下伊豆七島、小笠原島（明治四十四年二月法律第一號）

翌年五月限……地租額全部

○明治元年八月諸國ノ稅法ハ舊慣ニ依ラシムルコトトシ租稅收納法等ノ手續ヲ定ム

○明治三年七月檢見規則中顯著ナル事項ハ坪苅ノ方法ニ依リ登量石數ハ可成五公五民ヲ標準トシタルニアリ

○明治四年十二月東京府下武家地、町地ノ稱ヲ廢シ地券ヲ發行シ地租ヲ課收ス

○明治五年一月地券發行地租收納規則ヲ制定シ從來地子免除ノ地タリシ東京市街ニ地券ヲ發行シ分一ノ稅法（沽券稅）ヲ施行スルコトトシ漸次各府縣ノ市街地ニモ施行スルノ方針ナリキ其ノ要領下ノ如シ

1. 從來ノ武家地等ニシテ官ニ收メシモノハ之ヲ拂下ケ而シテ一般土地所有者ニ地券ヲ交付シテ其ノ證トシ兼テ課稅標準トス
2. 地券ニ記載スヘキ地價ハ土地ノ價格ニ依ル
3. 地租ハ地券金額ノ百分ノ二ヲ以テ其ノ率トシ外ニ鄕費トシテ稅金壹圓ニ付參錢ヲ賦課ス而シテ此等ノ課率ハ時ノ實況ニ依リ之ヲ高低スルモノトス

○明治五年二月地所賣買規則ヲ創定ス

○明治五年三月太政官布告ヲ以テ地券下付ノ許可ヲ大藏省達ヲ以テ公許シ

○明治五年八月第二百二十二號布告ヲ以テ田畑賣買ノ名稱ヲ別區ヲナス

○明治五年八月第二百二十二號布告ヲ以テ田畑賣買ニ來ル雜稅論勿ノ金納ヲ許ス

○明治六年七月第二百七十二號布告ヲ以テ地租改正條例及施行規則ヲ定メ地券調查濟次第地券ヲ渡シ地租改正ノ事業ヲ開始ス

○明治七年五月第三十三號布告ヲ以テ地租改正條例ニ第八章（改租後賣買ノ地價ニ增減ヲ生スルトモ改租ノ初年ヨリ五箇年間ハ當初決定セシ地價ニ依リ收稅スヘシ）ヲ追加ス

○明治八年八月第百五十四號達ヲ以テ一般地租改正ノ期限ヲ來九年ト定ム

○明治九年十二月太政官布告第百六十一號ヲ以テ北海道ノ地租ハ當分地價ノ百分ノ一ト定ム

○明治十年一月第一號布告ヲ以テ地租ヲ地價百分ノ二箇半ト定ム

○明治十年十一月第八十號布告ヲ以テ地租ノ內田方ニ限リ當分人民ノ情願ニ任セ半額代米納ヲ許ス

○明治十三年第二十五號布告ヲ以テ地價ハ仍ホ明治十八年迄据置クヘシトス

○明治十七年三月第七號布告ヲ以テ地租條例ヲ制定シ（地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス）明治六年七月第二百七十二號布告及地租改正ニ關スル條規其他地租條例ニ抵觸スル諸法規ヲ廢止ス

○明治十八年地押調查ニ著手シ爾來殆ント四箇年ニ渉リ全ク完成ス

○明治二十年田畑地價特別修正（明治十三年第二十五號布告ニ依リ實行セルモノナリ）

改租ノ擧ハ未曾有ノ大事業ナリシニ依リ成績上數箇所ニ不權衡ヲ來セリ就中不適當ノ著シキモノハ靜岡縣下遠江國一圓及和歌山縣一圓ニシテ其他前後ノ關係上及實際ニ照シ早晩修正ヲ要スヘキモノト認メタルニ依ルモノニシテ當初改租ノ成績上收穫米、麥、利子歩合石代相場等高キニ失セルヲ以テ特別地價修正ヲ施行セリ

○明治二十二年三月法律第十三號ヲ以テ地券ヲ廢シ地租ハ土地臺帳ニ登錄シタル地價ニヨリ其ノ記名者ヨリ徵收スルコトトシ從來ノ地券制度ヲ廢止ス

○明治二十二年八月法律第二十二號ヲ以テ明治二十三年分ヨリ田畑地價特別修正ヲ施行ス

○明治二十二年十一月法律第三十號ヲ以テ地租條例中ニ改正ヲ加ヘ且土地臺帳ニ揭ケタル價格ヲ同條例ノ地價ト稱スル旨ヲ定ム

○明治三十年三月法律第三號ヲ以テ明治二十九年七月ヨリ十月迄ノ間ニ於テ各地ノ洪水ニ因リ生シタル損害地ニ對シ地租特別處分法ヲ制定ス

○明治三十一年七月法律第二十一號ヲ以テ明治三十年七月ヨリ十月迄ノ間ニ於ケル各地ノ洪水ニ因リ生シタル損害地ニ對シ地租特別處分法ヲ制定ス

○明治三十一年十二月法律第三十一號ヲ以テ田畑地價修正ヲ施行シ明治三十年分地租ヨリ修正地價ニ依ル

○明治三十一年十二月法律第三十二號ヲ以テ地租條例中ヲ改正シ明治三十二年分ヨリ明治三十六年分迄市街宅地以外ノ地租ニ於テ地價千分ノ八市街宅地租ニ於テ地價百分ノ二半ヲ增徵ス

○明治三十二年二月法律第三號ヲ以テ明治三十一年八月ヨリ十月迄ノ間ニ於ケル各地ノ洪水ニ因リ生シタル損害地ニ對シ地租特別處分法ヲ制定ス

○明治三十二年三月法律第六十二號ヲ以テ市街宅地ト郡村宅地ト稅率ヲ異ニスルニ至リシヲ以テ宅地ノ組換ヲ行ヒ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○明治三十三年一月法律第一號ヲ以テ明治三十二年七月ヨリ同十月迄ノ間ニ於ケル各地ノ洪水ニ因リ生シタル損害地ニ對シ地租特別處分法ヲ制定ス

○明治三十三年一月法律第四號ヲ以テ明治三十二年中蝗蟲ノ害ヲ被リタル鳥取縣那賀郡ノ德

江村、坂野村、羽ノ浦村ニ對シ地租ノ特別處分法ヲ制定シ收穫皆無ノ地ノ當該年度分地租ヲ免除シ且ツ之ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ同年分ニ限リ之ヲ免除ス

○明治三十四年四月法律第二十七號ヲ以テ水害地方田畑地租免除ニ關スル件ヲ定メ茲ニ永久的法律ヲ以テ水害ニ依ル收穫皆無ノ地租免除ノ規定ヲ制定ス

○明治三十五年三月法律第二十六號ヲ以テ明治三十四年中雹害ニ因リ收穫皆無トナリタル土地ニ對シ特別處分法ヲ制定シ當該年分地租ヲ免除ス

○明治三十五年三月法律第二十七號ヲ以テ明治三十四年中蟲害ニ因リ生シタル損害地ニ對シ地租ノ特別處分法ヲ制定シ收穫皆無ノ地ノ當該年分地租ヲ免除ス

○明治三十五年十二月勅令第二百七十五號ヲ以テ明治三十六年一月一日ヨリ沖繩縣宮古郡、八重山郡ニ地租條例ヲ施行ス

○明治三十六年二月勅令第八號ヲ以テ從來震災、蟲害又ハ雹害ノ爲メ收穫皆無ニ歸シタル土地ノ地租ニ關シテハ時々特別法ヲ制定シ以テ之カ免除ヲ爲シ來リタルモ自今災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ニ對シテハ三年以內ノ年賦延納ヲ許可スルコトトス

○明治三十六年六月法律第三號ヲ以テ災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ニ對シテハ三年以內ノ年賦延納ヲ許可スルコトニセシモ更ニ本法ヲ制定シテ十年以內ノ年賦延納ヲ許可ス(明治三十六年六月勅令第百號ヲ以テ本法發布ニ伴ヒ明治三十六年二月勅令第八號ハ將來ニ向ツテ效力ヲ失フヘキ旨發令セリ)

○明治三十六年十二月勅令第二百七十八號ヲ以テ明治三十七年一月一日ヨリ沖繩縣島尻郡、中頭郡、國頭郡及那覇區、首里區ニ地租條例ヲ施行ス內地ノ稅率ニ於ニ同シ茲ニ同ニ縣全部同テ地租條例ヲ施行スルニ至レリ

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ市街宅地地價百分ノ八箇郡村宅地地價百分ノ六箇其ノ他ノ土地地價百分ノ四箇ニ同ニ三箇ヲ以テ明治三十七年分ヨリ增徵ス

○明治三十七年四月法律第十三號ヲ以テ明治三十五年以前ノ地租ニ縣ニ於ケル沖繩縣ニ非常特別稅法施行ノ際滯納ニ係ルモノハ同法施行中之カ徵收ヲ猶豫ス

○明治三十七年四月法律第十六號ヲ以テ方地岸地浩川濕良渡田畑ニ於ケル分ノ爲メ土壤變質シタルモノニ對シ現在地價ヲ低減シテ其ノ地價ヲ修正スルコトヲ定ム(現在地價低減合一等ヲ止ムヘキ割合ハ一等ニ付五分ヲ減シ十等ヲ以テ一等ニ至リテ五分ヲ每等四割五分ヲ四等ヲ以下三等ニ付六割、二等ニ付八割ノ割合ヲ以テ低減ス)

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法中地租ノ增徵率ヲ下ノ如ク定ム(地價百分ノ五箇)

市街宅地	郡村宅地	其他ノ土地
五箇	八箇	五箇

○明治三十九年四月法律第三十三號ヲ以テ北海道ニ地租條例ヲ施行ス(地價百分ノ四箇)

○明治三十九年三月法律第十號ヲ以テ明治三十八年中災害又ハ天候不良ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ハ其ノ年分ニ限リ之ヲ免除ス

○明治四十三年三月法律第二號ヲ以テ明治四十四年同)ヨリ正地價百分ノ四箇ヲ改メ百分ノ三箇ニ改メ大正四年分地租ヨリ適用ス)

宅地	田畑
半箇	五箇

北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租、田畑地價百分ノ三箇四、其ノ他ノ土地同百分ノ四箇

○明治四十三年三月法律第三號ヲ以テ宅地地價修正法ヲ定メ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(宅地ノ修正地價ハ本法ニ依リ定メタル賃貸價格ノ十倍トス但シ賃貸價格ノ十倍カ市街宅地ニ在リテハ現在地價ノ十八倍、郡村宅地ニ在リテハ現在地價ノ七倍ニ割ヲ超ユルトキハ市街宅地ニ在リテハ現在地價ノ七倍ニ割ヲ以テ其ノ地價トス)

○明治四十三年三月法律第二十五號ヲ以テ沖繩縣ニ於ケル舊租ノ徵收ヲ免除シ明治三十七年法律第十號延納ニ關スル規定ヲ廢止ス

○明治四十四年二月法律第一號ヲ以テ東京府管內八丈島ノ地租ハ黃絲一反ニ付金一圓七十錢二厘ノ割合ノ現金ト定メ同四十三年分ヨリ之ヲ適用ス

○大正二年七月皇室令第八號ヲ以テ地租、地租附加稅及段別割ニ關スル法規ハ皇族賜邸ヲ除クノ外皇族所有ノ土地ニ之ヲ適用スト定ム

○大正三年二月法律第一號ヲ以テ災害地地租免除法ヲ制定シ災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ヲ免租スルコトトシ(同年四月一日ヨリ施行)同時ニ明治三十四年法律第二十七號竝明治三十六年法律第三號ヲ廢止シ年賦延納金ニシテ未タ徵收セサルモノハ之ヲ免除ス

○大正三年三月法律第十七號ヲ以テ大嘗祭ノ齋田ニ指定セラレタル土地ノ地租ハ大正三年分ニ限リ之ヲ免除ス

○大正三年三月法律第十八號ヲ以テ地租條例中稅率一般ノ分田畑地價百分ノ四箇七ヲ百分ノ四箇ニ改メ大正四年分地租ヨリ適用ス)

宅地	田畑
四箇	三箇

○大正三年十二月法律第四十五號ヲ以テ大嘗祭ノ齋田ニ指定セラレタル土地ニ付テハ大正四年分地租ヲ免除ス

○大正四年十二月法律第二十八號ヲ以テ大正四年分田租第一期分ニ限リ大正五年六月十五日迄延納ノ件ヲ定ム

○大正八年四月法律第四十六號ヲ以テ地租條例中改正開墾年期、鑛下年期、地價据置年期、新開免租年期ヲ一定ノ最長年期ニ改正ス

○大正八年四月法律第三十八號ヲ以テ私立學校用地免租ニ關スル件ヲ定メ大正九年一月一日ヨリ施行ス

○大正十五年三月法律第六號ヲ以テ地租條例中改正シ大正十五年分地租ヨリ之ヲ適用ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 郡制廢止ノ結果第四條中「郡」ヲ削除ス

2. 個人ニシテ地租ヲ納ムヘキ者ノ住所地市町村及其ノ隣接市町村內ニ於ケル田畑地價ノ合計金額同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ自作地ニ對シ其ノ地租ヲ免除ス

○大正十五年三月法律第四十七號ヲ以テ舊慣ニ依リ永小作權者カ地租負擔ヲ約シタル田畑ノ地租免除ニ關スル件ヲ定メ大正十五年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○昭和二年三月法律第十八號ヲ以テ北海道ニ於ケル御料地ニ屬スル未開ノ地ヲ開拓シテ拂下ケ又ハ貸付ケタル土地ニ對シ地租ヲ免除シ且ツ之ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ同年分ニ限リ之ヲ免除ス

○明治三十四年四月法律第二十七號ヲ以テ水害地方田畑地租免除ニ關スル件ヲ定メ茲ニ永久的法律ヲ以テ水害ニ依ル收穫皆無ノ地租免除ノ規定ヲ制定ス

○明治三十五年三月法律第二十六號ヲ以テ明治三十四年中雹害ニ因リ收穫皆無トナリタル土地ニ對シ特別處分法ヲ制定シ當該年分地租ヲ免除ス

○明治三十五年三月法律第二十七號ヲ以テ明治三十四年中蟲害ニ因リ生シタル損害地ニ對シ地租ノ特別處分法ヲ制定シ收穫皆無ノ地ノ當該年分地租ヲ免除ス

○明治三十五年十二月勅令第二百七十五號ヲ以テ明治三十六年一月一日ヨリ沖繩縣宮古郡、八重山郡ニ地租條例ヲ施行ス

○明治三十六年二月勅令第八號ヲ以テ從來震災、蟲害又ハ雹害ノ爲メ收穫皆無ニ歸シタル土地ノ地租ニ關シテハ時々特別法ヲ制定シ以テ之カ免除ヲ爲シ來リタルモ自今災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ニ對シテハ三年以內ノ年賦延納ヲ許可スルコトトス

○明治三十六年六月法律第三號ヲ以テ災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ニ對シテハ三年以內ノ年賦延納ヲ許可スルコトニセシモ更ニ本法ヲ制定シテ十年以內ノ年賦延納ヲ許可ス(明治三十六年六月勅令第百號ヲ以テ本法發布ニ伴ヒ明治三十六年二月勅令第八號ハ將來ニ向ツテ效力ヲ失フヘキ旨發令セリ)

○明治三十六年十二月勅令第二百七十八號ヲ以テ明治三十七年一月一日ヨリ沖繩縣島尻郡、中頭郡、國頭郡及那覇區、首里區ニ地租條例ヲ施行ス內地ノ稅率ニ於ニ同シ茲ニ同縣全部同テ地租條例ヲ施行スルニ至レリ

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ市街宅地地價百分ノ八箇郡村宅地地價百分ノ六箇其ノ他ノ土地地價百分ノ四箇ニ同ク三箇ヲ以テ明治三十七年分ヨリ增徵ス

○明治三十七年四月法律第十三號ヲ以テ明治三十五年以前ノ地租ニ縣ニ於ケル沖繩縣ニ非常特別稅法施行ノ際滯納ニ係ルモノハ同法施行中之カ徵收ヲ猶豫ス

○明治三十七年四月法律第十六號ヲ以テ方地岸地浩川濕良渡田畑ニ於ケル分ノ爲メ土壤變質シタルモノニ對シ現在地價ヲ低減シテ其ノ地價ヲ修正スルコトヲ定ム(現在地價低減合一等ヲ止ムヘキ割合ハ一等ニ付五分ヲ減シ十等ヲ以テ一等ニ至リテ五分ヲ每等四割五分ヲ四等ヲ以下三等ニ付六割、二等ニ付八割ノ割合ヲ以テ低減ス)

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法中地租ノ增徵率ヲ下ノ如ク定ム(地價百分ノ五箇)

市街宅地	郡村宅地	其他ノ土地
五箇	八箇	五箇

○明治三十九年四月法律第三十三號ヲ以テ北海道ニ地租條例ヲ施行ス(地價百分ノ四箇)

○明治三十九年三月法律第十號ヲ以テ明治三十八年中災害又ハ天候不良ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ハ其ノ年分ニ限リ之ヲ免除ス

○明治四十三年三月法律第二號ヲ以テ明治四十四年同)ヨリ正地價百分ノ四箇ヲ改メ百分ノ三箇ニ改メ大正四年分地租ヨリ適用ス)

宅地	田畑
半箇	五箇

スル土地ニ對スル土地賦課ヲ免レサルノミナラス非常ノ年ニ於テハ地租ハ民有ト爲リタル後ニ經過シタル年數ニ應シ地租ヲ減免スルコトアリ

ス

營業收益稅

（大正十五年三月法律第十一號營業收益稅法）

○稅　率

法　人……百分ノ三・六

個　人……百分ノ二・八

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

個人カ其ノ營業用ノ土地ニ付納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

前二項ノ場合ニ於テ控除スヘキ地租又ハ資本利子稅ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セス

○納　期

法　人……各事業年度毎

個　人

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限……稅額ノ二分ノ一

第二期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限……稅額ノ二分ノ一

○大正十五年三月法律第十一號ヲ以テ營業收益稅法ヲ制定シ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 外形標準ニ依リ課稅スル營業稅ハ之ヲ廢止シ之ニ代フルニ營業收益稅ヲ以テシ純益ヲ以テ其ノ課稅標準トス
2. 營利法人ニ對シテハ總テ營業收益稅ヲ課スルコトニスル但シ漁業及演劇興行ハ之ヲ例外トシ現行通リ地方稅ヲ課セシム
3. 個人營業ノ課稅範圍ハ大體營業稅ノ課稅業體ト同一トシ運河業、揚搖業、船舶碇繫場業、貨物陸揚場業ノ如キ營業者數極メテ少ナキ種目、保險業及信託業ノ如キ法律上個人營業者ナキモノハ課稅業名ヨリ之ヲ削除ス

4. 純益ノ算定ハ大體所得稅法ノ所得金額ノ算定ニ準シ法人ニ付テハ各事業年度毎ニ決定シ、個人ニ付テハ毎年調査委員會ニ付議シテ決定スル但シ個人法人共稅法施行地外ノ營業ヨリ生スル純益ハ之ヲ算入セサルコトトス
5. 營業稅法ニ於テ製造業其ノ他ニ對シ開業後三箇年間免稅スルノ制度ハ原則トシテ之ヲ廢止シ唯所得稅法ニ於ケルカ如ク重要物産ノ製造業ノミニ對シ三箇年間免稅スルコトトス
6. 個人營業ニ付テハ純益四百圓ヲ以テ課稅最低限トス
7. 稅率ハ法人百分ノ三・六、個人百分ノ二・八トス
8. 營業收益稅ト地租及資本利子稅トノ重複課稅ヲ避クル爲法人ノ營業收益稅額中ヨリ其ノ事業年度內ニ納付シタル地租及資本利子稅ヲ控除シ個人ノ營業收益稅額中ヨリモ營業ニ專用スル土地ノ地租ヲ控除ス
9. 個人營業ノ純益決定時期ヲ五月、申告期限ヲ三月十五日、納期ヲ八月及十一月トス
10. 營業收益稅ノ調査決定ハ所得ノ調査決定ト同時ニ之ヲ爲スカ故ニ調査委員會ハ本稅ノ爲ニ之ヲ特設セス所得調査委員會ニ併合ス
11. 決定ニ對スル異議申立、減損更訂、納稅地等ハ大體所得稅ニ準ス
12. 營業收益稅ハ大正十六年ヨリ之ヲ施行ス併シテ大正十五年分ノ營業稅ニ付テハ決定稅額ニ對シ百分ノ八ノ輕減ヲ行フ

資本利子稅

（大正十五年三月法律第十二號資本利子稅法）

○稅　率

本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル

甲　種　公債、社債、產業債券若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益……百分ノ二

乙　種　第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有スル者ノ第三種ノ所得中營業ニ非サル貸金又ハ預金ノ利子……百分ノ二

信託會社カ其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財產ニ付納付シタル資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ資本利子稅ハ其貸付信託ノ利益ニ之ヲ加算ス

○納　期

甲　種 …… 其ノ金額ノ支拂ノ際

乙　種

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限 …… 税額二分ノ一

第二期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限 …… 税額二分ノ一

○大正十五年三月法律第十二號ヲ以テ資本利子稅法ヲ制定シ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 土地ニ對スル地租及營業ニ對スル營業收益稅トノ權衡上內國ニ於テ支拂ヲ受クル次ノ資本利子ニ對シ資本利子稅ヲ創設ス

甲種　公債、(國債ヲ含ム)社債、產業債券、銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

乙種　第三種所得ニ付納稅義務ヲ有スル者ノ所得中營業ニ非サル貸金又ハ預金ノ利子

2. 所得稅法ニ於テ免稅スル公共團體、公益法人、產業組合等ノ受クル利子及貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子ニハ課稅セス

3. 課稅標準額ハ利子其儘トシ稅率ヲ百分ノ二トス

4. 貸付信託ノ信託財產ニ付二重課稅ヲ避クルカ爲信託會社ノ納ムル資本利子稅額ハ其ノ信託ノ利益ニ付受益者ノ納ムヘキ資本利子稅額ヨリ之ヲ控除ス

5. 甲種ノ資本利子(公債、社債、銀行預金ノ利子等)ニ付テハ所得稅法第二種所得稅ノ如ク利子支拂ノ際支拂者ニ於テ差引徵稅ス

6. 乙種ノ資本利子(第三種所得納稅者ノ非營業貸金及預金ノ利子)ハ前年中ノ金額ニ依リ算定スルコトトシ所得金額ト同時ニ所得調査委員會ニ付議シテ決定ス

7. 乙種ノ資本利子ノ決定時期ヲ五月、申告期限ヲ三月十五日、納期ヲ八月及十一月トス

8. 決定ニ對スル異議申立、納稅地等ハ大體所得稅ニ準ス

9. 資本利子稅法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ乙種ノ資本利子ニ付テハ大正十五年分ヨリ本法ヲ適用ス

相續稅　(明治三十八年一月法律第十號相續稅法)

○稅率

課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

1 家督相續

- 第一種 相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ
- 第二種 相續人カ被相續人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相續人ノ家族タル直系尊屬又ハ入夫ナルトキ
- 第三種 相續人カ民法第九百八十五條ニ依リ選定セラレタル者ナルトキ

課稅價格	第一種	第二種	第三種
五千圓以下ノ金額	千分ノ五	千分ノ六	千分ノ八
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ六	千分ノ七	千分ノ十
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七	千分ノ八	千分ノ十五
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八	千分ノ十	千分ノ二十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十	千分ノ十五	千分ノ二十五
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	千分ノ二十	千分ノ三十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ四十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ五十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ四十	千分ノ六十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ五十	千分ノ七十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ六十	千分ノ八十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ七十	千分ノ九十
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ八十	千分ノ百
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十	千分ノ九十	千分ノ百十
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十	千分ノ百	千分ノ百二十
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百十	千分ノ百三十
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百十	千分ノ百二十	千分ノ百四十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十	千分ノ百三十	千分ノ百五十
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百三十	千分ノ百四十	千分ノ百六十

2 遺產相續　(第一種 相續人カ直系卑屬ナルトキ)　(第二種 相續人カ配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ)　(第三種 相續人カ其他ノ者ナルトキ)

課稅價格	第一種	第二種	第三種
千圓以下ノ金額	千分ノ十	千分ノ十二	千分ノ十七
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二	千分ノ十四	千分ノ二十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十五
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ四十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十五	千分ノ五十五
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十五	千分ノ六十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	千分ノ五十五	千分ノ七十五
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十五	千分ノ六十五	千分ノ八十五
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十五	千分ノ七十五	千分ノ九十五
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十五	千分ノ八十五	千分ノ百五

二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十五	千分ノ九十五	千分ノ百十五
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十五	千分ノ百五	千分ノ百二十五
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百五	千分ノ百十五	千分ノ百三十五
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百十五	千分ノ百二十五	千分ノ百四十五
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十五	千分ノ百三十五	千分ノ百五十五
百萬圓ヲ超スル金額	千分ノ百三十五	千分ノ百四十五	千分ノ百六十五
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百五十	千分ノ百六十	千分ノ百八十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百六十五	千分ノ百七十五	千分ノ百九十五
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百八十	千分ノ百九十	千分ノ二百十

○納　期　課稅價格百圓以上ノモノハ一時納付ノ際一定決シ但シ稅額ヲ以テ七年以內ノ年賦延納ヲ許ス

○明治三十八年一月法律第十號ヲ以テ相續稅法ヲ制定シ同年同月四日ヨリ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 相續開始シタルトキハ開始カ帝國內ニ在ルト否トヲ問ハス又被相續人若ハ相續人カ帝國臣民タルト否トヲ問ハス本法施行地ニ在ル相續財產ニハ相續稅ヲ課ス

2. 相續稅ヲ課セサル場合

(1)課稅價格カ家督相續ニ在リテハ千圓遺產相續ニ在リテハ五百圓ニ滿タサルトキ

(2)軍人軍屬ノ戰死又ハ戰爭ノ爲メ受ケタル傷痍疾病ニ起因シタル死亡ニ依リ相續開始シタルトキ

3. 相續財產

(1)被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ本法施行地ニ在ル動產及不動產、不動產ノ上ニ存スル權利及右以外ノ財產權

(2)被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ本法施行地ニ在ル動產及不動產、不動產ノ上ニ存スル權利

4. 課稅價格、相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價格ニ相續開始前一年以內ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價格ヲ加ヘ其ノ中ヨリ公課被相續人ノ葬式費用、債務(政府カ確實ト認メタルモノニ限ル)ヲ控除シタルモノ但シ被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサル場合ノ控除金ハ相續財產ニ係ル公課、相續財產ヲ目的トスル留置權特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務及相續財產ニ關スル贈與ノ義務トス

5. 課稅價格ニ算入セサルモノ、永代借地權、公共團體又ハ慈善事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈

6. 相續財產ノ價格ハ相續開始ノ時ノ價格ニ依リ條件付權利、存續期間ノ不確定ナル權利又ハ訴訟中ノ權利ニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依ル但シ船舶、地上權、永小作權及定期金ニ付テハ特別ノ計算方法ヲ規定ス

7. 稅率

課稅價格	家督相續 (第一種)	家督相續 (第二種)	家督相續 (第三種)	遺產相續 (第一種)	遺產相續 (第二種)	遺產相續 (第三種)
千圓以下ノ金額	—	—	—	千分ノ十五	千分ノ十七	千分ノ二十五
五千圓以下ノ金額	千分ノ十二	千分ノ十五	千分ノ二十	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	千分ノ十七	千分ノ二十五	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ三十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ四十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ三十五	千分ノ三十	千分ノ三十五	千分ノ四十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ四十	千分ノ三十五	千分ノ四十	千分ノ五十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ三十五	千分ノ四十五	千分ノ四十	千分ノ四十五	千分ノ五十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十	千分ノ五十	千分ノ四十五	千分ノ五十	千分ノ六十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ四十五	千分ノ五十五	千分ノ五十	千分ノ五十五	千分ノ六十五
十萬円ヲ超ユル金額(其ノ五萬圓ヲ超ユル金額ニ付テハ百萬円ニ至ル迄ムニ同シ)	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相續ニ關シテハ遺產相續ニ關スル稅率ヲ準用ス

8. 相續稅ヲ課セラレタル後三年以內又ハ五年以內ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ニ相當スル相續稅ノ全額又ハ半額ヲ減免ス

9. 相續人遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ一定期間內ニ相續財產目錄及控除金明細書ヲ提出スル義務アリ

10. 戶籍吏ハ相續開始原因ノ屬書ヲ受理シタルトキハ收稅官廳ニ報告スル義務ヲ負ハシム

11. 課稅價格ハ政府之ヲ決定シ相續人遺言執行者又ハ相續財產管理人ニ通知ス右決定ニ異議アルトキハ一定期間內ニ再審査ヲ求ムルコトヲ得尙決定ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

12. 相續稅ハ一時ニ納付スルコトヲ原則トスルモ稅金百圓以上ナルトキハ擔保ヲ提供シテ三年以上ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得

13. 遺產相續開始ト看做シ課稅スヘキ特例(準相續)

本法施行地ニ在ル不動產及船舶以外ノ財產ニ付爲シタル贈與ノ價格カ五百圓以上ナルトキ

(1)被相續人カ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ニ贈與ヲ爲シタルトキ

(2)分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戶主又ハ家族カ分家ノ戶主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

○明治四十三年三月法律第四號ヲ以テ家督相續ニ對スル負擔輕減ノ爲及實施ノ成績ニ鑑ミ稅率其ノ他ニ改正ヲ加ヘ同年四月一日ヨリ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 課稅價格ニ算入セサルモノノ中ニ公益事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ヲ追加ス

2. 稅　率(遺產相續ノ稅率ハ異動ナシ)

課稅價額	家督相續 (第一種)	家督相續 (第二種)	家督相續 (第三種)	遺產相續 (第一種)	遺產相續 (第二種)	遺產相續 (第三種)
千圓以下ノ金額	—	—	—	千分ノ十五	千分ノ十七	千分ノ二十五
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十	千分ノ十二	千分ノ十五	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二	千分ノ十四	千分ノ二十	千分ノ二十	千分ノ二五	千分ノ三十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ四十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十	千分ノ三十	千分ノ三十五	千分ノ四十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ三十五	千分ノ三十五	千分ノ四十	千分ノ五十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ四十	千分ノ四十	千分ノ四十五	千分ノ五十五

五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ三十五	千分ノ四十五	千分ノ四十五	千分ノ五十	千分ノ六十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十	千分ノ五十	千分ノ五十	千分ノ五十五	千分ノ六十五
十萬圓ヲ超ユル金額ハ其ノ五萬圓毎ニ（百萬圓ニ至ルマデ）	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ

3. 從來ハ相續開始後三年以內又ハ五年以內ニ更ニ相續開始ノ場合ニ相續稅ヲ減免スルノ規定ナリシヲ右期間三年以內ヲ五年以內ニ五年以內ヲ七年以內ニ改ム

4. 稅金年賦延納期間三年ヲ五年ニ改ム

○大正三年三月法律第二十二號ヲ以テ負擔ノ輕減ヲ圖リ併セテ課稅ノ衡平ヲ期スル爲稅率其ノ他ヲ改正シ大正四年四月一日ヨリ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 稅　率

課稅價格	家督相續（第一種）	家督相續（第二種）	家督相續（第三種）	遺產相續（第一種）	遺產相續（第二種）	遺產相續（第三種）
千圓以下ノ金額	一	一	一	千分ノ十	千分ノ十二	千分ノ十七
五千圓以下ノ金額	千分ノ五	千分ノ六	千分ノ八	千分ノ十二	千分ノ十四	千分ノ二十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ六	千分ノ七	千分ノ十	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七	千分ノ八	千分ノ十二	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八	千分ノ十	千分ノ十四	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ三十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十	千分ノ十二	千分ノ十七	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ四十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二	千分ノ十四	千分ノ二十	千分ノ三十	千分ノ三十五	千分ノ四十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五	千分ノ三十五	千分ノ四十	千分ノ五十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十	千分ノ四十	千分ノ四十五	千分ノ五十五
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ三十五	千分ノ四十五	千分ノ五十	千分ノ六十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ四十	千分ノ五十	千分ノ五十五	千分ノ六十五
二十萬圓ヲ超ユル金額ハ其ノ十萬圓毎ニ（百萬圓ニ至ルマデ）	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ	千分ノ五ヲ加フ

2. 家督相續ニ對スル特別控除金ノ規定ヲ追加ス

課稅價格三千圓以下ナルトキ控除金一千圓

同　五千圓以下ナルトキ控除金五百圓

3. 家督相續課稅最低限一千圓ヲ二千圓ニ引上ク

○大正十一年四月法律第四十八號ヲ以テ信託法ノ制定ニ伴フ事項ヲ改正追加シ大正十一年二月一日ヨリ施行ス

○大正十五年三月法律第十三號ヲ以テ稅率其ノ他ヲ現行ノ通改正シ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

稅率以外ノ次ノ要領ノ如シ

1. 課稅最低限ノ引上。家督相續課稅最低限二千圓ヲ五千圓ニ遺產相續同五百圓ヲ千圓ニ引上ク

2. 從來遺產相續ト看做スヘキ與贈ニ對シ親族ニ限ルモノニ與シタルモノヲ與贈シタルモノト看做スコトニ改ム

3. 船舶ノ價格ヲ一定ノ計算方法ニ依リ算定スルコトヲ時價ニ依リ適當ニ算定スル稅ニ改ム

4. 受益者不特定又ハ未タ存在セサル信託ニ付テハ所得稅ノ場合ニ準シ受託者ニ對シ課スル稅

コトトス

5. 稅金年賦延納期間五年ヲ七年ニ改ム

6. 家督相續ノ場合ニ於テ相續財產價格五千圓以下ナル場合ニ於ケル特別控除ノ制ヲ廢止ス

鑛業稅

（明治三十八年三月法律第四十五號鑛業法（第六章））

○稅　率

鑛區稅　鑛區千坪毎ニ毎年（千坪未滿ハ之ヲ千坪ト看做ス）　試掘三十錢　採掘六十錢

鑛產稅……鑛產物ノ價格ノ百分ノ一

○納　期

鑛區稅……毎年十二月中ニ翌年分前納

鑛產稅……毎年三月中ニ前年分納付（鑛業權消滅ノ場合ハ卽納）

○明治四年四月布告ヲ以テ鑛山採掘願アリシトキハ地方官ニ於テ調査シ至當ノ稅ヲ敎メ請負ハシム

○明治六年七月第二百五十九號布告ヲ以テ初メテ稍完全ナル日本坑法ヲ制定シ同年九月一日ヨリ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

鑛業ニ關スル租稅ヲ分ツテ借區稅、坑物稅ノ二種トス前者ハ坑區ニ對シ後者ハ採製セル金屬及坑物ニ對シ賦課ス

借區稅有鑛買物ノ坑區面積五百坪毎ニ一箇年金一圓毎年一月ニ前一年分ヲ納メシム鐵及無鑛買ノ諸物品ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪ニ付五十錢、開坑區面積五百坪廢鑛區一千坪ニ足ラサルモノハ總テ面積ノ比例ニ依テ納メシム借區初年ノ借區稅ハ月割トス

坑物稅金屬及諸坑物代價百分ノ三ヨリ百分ノ二十迄毎年一月七月ノ兩度ニ納メシム但シ稅額ハ其ノ坑業ノ盛衰ニ隨ヒ鑛山寮ヨリ之ヲ命ス

○明治八年一月布告ヲ以テ鑛物稅ヲ廢止ス

○明治十四年一月第四十九號布告ヲ以テ借區稅ハ總テ前納ニ改メ且ツ怠納者ハ其ノ借區券ヲ取上ケ鑛業ニ從事スルコトヲ得サラシム

○明治二十三年九月法律第八十七號ヲ以テ鑛業條例ヲ制定シ同二十五年六月一日ヨリ實施シ同日限リ日本坑法ヲ廢止ス（鑛業稅ハ鑛業製產物ノ價格百分ノ一、鑛區稅ハ坑區千坪毎ニ一箇年三十錢但シ千坪未滿ノ端數ハ課稅外、鑛區稅ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ日ヨリ六十日以內ニ納メシム）

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ鑛區稅ニ鑛區一千坪毎ニ一箇年十錢ノ增徵ヲ課ス

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法ニ改正ヲ加ヘ鑛區稅ノ增徵ヲ試掘採掘ニ共ニ鑛區一千坪毎ニ一箇年二十錢ト改ム

○明治三十八年三月法律第四十五號ヲ以テ鑛業法ヲ制定シ同年七月一日ヨリ施行シ同時ニ鑛業ニ關スル法律ヲ廢止ス

鑛區稅、鑛業權消滅ノ場合ハ即納トス

臣務大農商ト準標ヲ格價ノ物產鑛一ノ分百ノ格價物產鑛、稅之ヲ告示セサルモノハ檢定ス鑛產稅ハ每年三月中ニ前年分ヲ納付スル但シ

金鑛、銀鑛、鉛鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

鑛區稅、鑛區一千坪ニ付キ每年試掘金十錢、採掘金四十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ看做ス

擔負ニ新ニ鑛業權ヲ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ納スル但シ前年分ヲ翌年二月中ニ納ムルモノハ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ之ヲ計算シ即納トス

シ又ハ不足セル鑛業稅ニシテ

ムシセ得ヲトコトルス課ヲ稅加附ノ內以十ノ分百稅本各シ對ニ稅業鑛ハ村町及縣府道海北

○明治四十三年三月法律第十號ヲ以テ鑛業法中鑛區稅、鑛區掘採試ヲ率稅ノ稅區鑛業鑛ヲ改正シ同四十四年一月一日ヨリ施行非常特別稅法中鑛區稅ヲ六十錢ニ改正シ同四十四年一月一日ヨリ施行ス

○明治四十四年三月法律第九號ヲ以テ自己採掘ノ鑛物ト他ヨリ取得ノ鑛物ヲ合併製鍊スル場合ニ於テハ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅ヲ課セス

砂鑛區稅

（法律第十三號砂鑛區稅法／明治三十四年第九號）

○稅　率

河　床……砂鑛區域一町每ニ……金三十錢

河床ニ非サルモノ……砂鑛區域一千坪每ニ……金三十錢

○納　期……每年中ニ翌年二十分ノ前納

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法中改正ニ依リ砂金採取地稅ヲ創定シ同時ニ砂鑛ニ加ヘ稅ヲ同一ナリ

○明治四十三年三月法律第九號ヲ以テ本法ヲ制定シ同四十四年一月一日ヨリ施行非常特別稅法中砂金採取地稅ニ關スル規定ヲ廢止ス

兌換銀行券發行稅

（明治十七年五月布告第十八號兌換銀行券條例／明治三十二年三月法律第五十六號兌換銀行券發行稅法）

○稅　率

保證發行　一箇月ノ平均發行高ニ對シ一箇年百分ノ五

但シ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ千分ノ二十五ヲ下ラサル年百分ノ五ヲ以テ保證發行ノ其ノ一部ヲ合割スルトキハ其ノ合割ノ大藏大臣之ヲ定ム

制限外發行　其ノ高ニ對シテハ其ノ他ノ貸付ケタル兌換券ニ付テハ又政府ニ對シテハ無利息ヲ以テ納稅義務ヲ免除ス

○納　期

其年八月二十日限リ後半季分ハ翌年二月二十日限リ前半季分

○明治十七年五月第十八號布告ヲ以テ兌換銀行券條例ヲ制定シ日本銀行ニ金銀貨及地金銀ヲ引換準備トシテ同額ノ兌換券發行ノ特權ヲ附與ス

○明治二十一年八月勅令第五十九號ヲ以テ兌換銀行券條例中ニ保證準備竝ニ制限外發行ヲ特許シ其ノ發行額ニ對シ兌換銀行券發行稅ヲ納メシムルノ規定ヲ追加ス

保證準備發行　政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシテ七千萬圓ヲ限度トス

制限外發行　市場ノ景況ニ依リ通貨ノ增加ヲ必要トスル場合大藏大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ發行ス此場合ハ一箇年百分ノ五以上ノ割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムルモノトス

○兌換銀行券條例ニ基キ大藏大臣ノ定メタル制限外發行稅率ノ沿革下ノ如シ

明治二十三年二月二十七日　百分ノ五　同三十年八月十一日　百分ノ六　同三十年十一月二日　百分ノ七

同三十一年十月十六日　百分ノ五　同三十三年四月二十一日　百分ノ七　同三十三年六月三十日　百分ノ八

同三十五年十二月一日　百分ノ六　同八年十一月二十日　百分ノ七　大正二年一月六日　百分ノ五

○明治二十三年三月二十二日明治三十三年五月法律第三十四號ヲ以テ保證準備發行額ヲ八千五百萬圓ニ改ム

○明治三十二年三月法律第五十六號ヲ以テ保證ニ據リ發行スル兌換券ニ對スル納稅ノ制ヲ定ム是卽制限外發行稅ト共ニ現行ノモノナリ

取引所稅

（大正三年三月法律第二十三號取引所稅法）

○稅　率

取引所營業稅……賣買手數料收入金額百分ノ十五

取引稅　取引所ニ於ケル取引ニシテ差金ノ授受ニ依リ決濟シ得ルモノニ付キ賣買各約定金高ニ對シ

第一種　地方債證券、社債券

甲　七日以內ノ期限ヲ以テ履行期トナスヘキ取引ニ屬スルモノ……萬分ノ六

乙　其ノ他ノモノ……萬分ノ一

第二種　有價證券

甲　七日以內ノ期限ヲ以テ履行期トナスヘキ取引ニ屬スルモノ……萬分ノ一·五

乙　其ノ他ノモノ……萬分ノ二·五

第三種　商品……萬分ノ二·五

○納期

取引所營業稅……毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付

取引稅（取引所ノ取引員又ハ會員）……毎月分ヲ經テ所引取ヲ翌月末日迄ニ納付

○明治七年十月第百七號布告ヲ以テ株式取引所條例ヲ制定ス取引所ヨリ納ムヘキ稅額ハ開業後六箇月ノ實際報告ニ據リ取極ムルコトトス

○明治八年五月第八十八號布告ヲ以テ諸會社稅中米穀相場會社稅ヲ賣買手數料其ノ他現收スル總金高千分ノ四ト定ム

○明治九年八月第百五號布告ヲ以テ米商會所條例ヲ制定ス（稅額賣買手數料其ノ他現收スル總金高千分ノ四納期ヲ前半年分ハ七月中後半年分ハ翌年一月中ト定ム）

○明治十一年五月第八號布告ヲ以テ明治七年制定ノ株式取引所條例ヲ廢止シ新ニ株式取引所條例ヲ制定ス同年九月布告第三十號ヲ以テ同條例ノ稅額ヲ定メ（手數料其ノ他現收總金高十分ノ一）同年十月一日ヨリ施行ス

○明治十五年五月第二十六號布告ヲ以テ米商會所條例ヲ改正シ會所ハ會所ニ於テ領收セシ手數料總金高十分ノ四ヲ納稅スルコトトシ納期ハ前半年分ヲ七月中後半年分ヲ翌年一月中ト定ム

○明治十五年十二月第六十四號布告ヲ以テ株式取引所條例ヲ改正シ更ニ第六十五號及第六十六號布告ヲ以テ米商會所株式取引所仲買人納稅規則ヲ制定シ同十六年四月一日ヨリ施行ス（定期賣買ハ賣買雙方ヨリ各約定金高ニ應シ米商會所仲買人ハ千分ノ五、株式取引所仲買人ハ千分ノ一、金銀貨仲買人ハ千分ノ二半トシ會社稅ハ賣買手數料總金高ニ應シ株式取引所ハ十分ノ一、米商會所ハ十分ノ二）

○明治十五年十二月第六十七號布告ヲ以テ株式取引所條例ヲ改正シ手數料其他現收ニ係ル總金高ヲ標準トセル手數料總金高ニ依ルコトトシ同十六年四月一日ヨリ施行ス

○明治十六年八月第二十八號布告ヲ以テ仲買人納稅規則ヲ改正シ株式取引所金銀貨取引ノ轉賣買戻ニ對シ免稅スルコトトス

○明治十八年十一月第三十六號布告ヲ以テ米商會所株式取引所收稅規則ヲ改正シ仲買人ヨリ徵收シタル取引稅ヲ廢止シ米商會所及株式取引所ヲ納稅主體トシテ定期賣買約定代金ニ課稅スルコトニシ（定期賣買ハ賣買約定金高ニ應シ米穀ハ千分ノ二、公債ハ萬分ノ三、諸株式ハ萬分ノ六）同時ニ金銀貨取引ヲ禁止ス

○明治二十一年十一月勅令第七十五號ヲ以テ米穀定期賣買ノ稅率ヲ萬分ノ六ニ改メ同年十二月一日ヨリ施行ス

○明治二十六年三月法律第六號ヲ以テ取引所稅法ヲ制定シ課稅範圍ヲ擴張シ一般商品、有價證券ニ亞ニ國債地方債證券ニモ及ヒ同年十月一日ヨリ施行ス（稅率、定期賣買商品、有價證券賣買各約定代金萬分ノ六、國債及地方債證券同萬分ノ三）

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ商品、有價證券ニ賣買各約定代金萬分ノ三、國債及地方債證券ニ同萬分ノ二ノ增徵ヲ課ス

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法ニ改正ヲ加ヘ取引所稅ノ增徵ヲ商品有價證券賣買各約定代金萬分ノ六、國債及地方債證券同萬分ノ二ト改ム

○明治三十九年三月法律第十二號ヲ以テ國債證券ノ定期賣買ニ對スル課稅（非常特別稅トモ）ヲ廢止シ同年四月十一日ヨリ施行ス

○明治四十三年三月法律第十二號ヲ以テ稅法中國債ヲ創リ稅率ヲ商品、有價證券賣買各約定代金萬分ノ十二、地方債證券萬分ノ五ニ改メ（同四十三年四月一日ヨリ施行）非常特別稅法中取引所稅ニ關スル規定ヲ廢止ス

○大正三年三月法律第二十三號ヲ以テ本法ヲ改正シ（同年九月一日ヨリ施行）明治三十九年法律第十二號ヲ廢止ス要領次ノ如シ

1. 舊法ニ於テハ單ニ取引所稅トシテ取引所ノミニ課稅シタリシヲ改メテ二種ト爲シ賣買機關タル取引所（會員組織ノモノヲ除ク）ニ取引所營業稅ヲ課シ仲買人及會員ニ取引稅ヲ課スルコトトシ課稅標準ハ取引所營業稅ハ賣買手數料收入金額取引稅ハ賣買約定金高トナシタリ

2. 稅率

取引所營業稅、手數料收入金額百分ノ十五取引稅、定期取引賣買約定高ニ對シ第一種地方債券及社債券萬分ノ二第二種有價證券萬分ノ五第三種商品萬分ノ五

○大正十一年三月法律第六十一號ヲ以テ稅率ヲ半減シテ受渡ニ了ルモノノ負擔ヲ輕減シ轉賣買及社債券萬分ノ五第三種商品萬分ノ五

○大正十一年三月法律第六十一號ヲ以テ稅率ヲ半減シテ受渡ニ了ルモノノ負擔ヲ輕減シ轉賣買戻ニ對スル免稅規定ヲ創除スルト共ニ課稅範圍ヲ擴張シテ短期取引ニモ課稅スルコトニ改正シ同年九月一日ヨリ施行ス之レ現行法ナリ

狩獵免許稅

（大正七年四月法律第三十二號狩獵法）

○免許稅（收入印紙）

一等　所得稅二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族……五十圓

二等　所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族……三十圓

三等　一等及一等以外ノ者……五　圓

○舊幕時代ニアリテハ鐵砲役又ハ鐵砲運上ト稱シテ銃獵ヲ爲スモノニ對シ所在適宜ノ課稅ヲ爲シタリシカ明治三年十月大藏省達ヲ以テ鐵砲役又ハ鐵砲運上ヲ獵師役ト改メ維新前ノ舊慣ニ依リ課稅スルコトトス

○明治五年第二十八號布告ヲ以テ銃砲取締規則ヲ定メ同年二月大藏省第二十三號達ヲ以テ獵師役ヲ改メ獵銃免許稅ト稱ス然レトモ稅額ハ仍ホ舊ニ依ル

○明治六年一月第二十五號布告ヲ以テ鳥獸獵免許取締規則ヲ制定シ從來ノ獵銃稅ヲ廢シ鳥獸獵免許稅ヲ定メ鑑札有效期間ヲ一箇年トシテ鑑札下付稅金職獵金一圓、遊獵金十圓トス

○明治六年三月第百十號ヲ以テ鳥獸獵規則ヲ制定シ免許稅ヲ免許料ニ改メ免許ヲ受ケタル者ハ大藏省及陸軍省ニ屬出ツヘキモノトシ第二十五號布告ヲ廢止ス但シ稅額ニ異動ナシ

○明治七年十一月第百二十二號布告ヲ以テ免許料ヲ鉄獵稅ニ改ム

○明治七年十月大藏省達第百五十七號ヲ以テ皇族ノ鉄獵ニツキテハ無稅トス

○明治十年一月內務省達ヲ以テ外國人鉄獵免許取扱條例ヲ制定シ外國人ノ鉄獵免許ニ對シテモ免許料ヲ徵收スヘキ旨ヲ規定ス

○明治十年一月第十一號布告ヲ以テ鳥獸獵規則ヲ改正シ免許料ヲ免許稅ニ改メ其ノ收入ヲ內務省所管トス(免許稅職獵稅金一圓、遊獵稅金十圓)

○明治十四年九月第四十三號布告ヲ以テ所管ヲ內務省ヨリ農商務省ニ移ス

○明治二十五年十月勅令第八十四號ヲ以テ狩獵規則ヲ制定シ(鉄ヲ使用スルト否トニ依リ甲種乙種ニ區別シ職獵免許料甲種金五十錢、乙種金一圓、遊獵免許料甲種金五圓、乙種金十圓、總テ有效期間ヲ滿一箇年トシ同年十月十五日ヨリ施行ス)同時ニ明治十年布告鳥獸獵規則ヲ廢止ス

○明治二十八年三月法律第二十號ヲ以テ狩獵法ヲ制定シ免許稅ヲ改メ同年四月十六日ヨリ施行シ狩獵ニ關スル從前ノ規則ヲ廢止ス

免許稅一等所得稅十五圓以上若ハ地租二百圓以上ヲ納ムル者甲種金五圓、乙種金十圓、二等所得稅三圓以上若ハ地租四十圓以上ヲ納ムル者又ハ一等相當者ノ家族甲種金一圓五十錢、乙種金三圓、三等一等二等以外ノ者甲種金五十錢、乙種金一圓

○明治三十年三月法律第七號ヲ以テ狩獵免許稅ヲ印紙納付ニ改正ス

○明治三十四年四月法律第三十三號ヲ以テ狩獵法中ヲ改正シ同年七月一日ヨリ施行ス。免許稅甲乙各種ニ付一等金二十圓(所得稅百圓以上、地租五百圓以上若ハ營業稅百五十圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族)二等金十圓(所得稅三圓以上、地租三十圓以上若ハ營業稅二十圓以上ヲ納ムルモノ又ハ其ノ家族)三等金二圓一等二等以外ノ者

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ狩獵免許稅ニ一等金十圓、二等金五圓、三等金一圓ノ增徵ヲ課ス

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法ニ改正ヲ加ヘ狩獵免許稅ノ增徵ヲ一等、二等金各金二十圓、三等金五圓ニ改ム

○明治四十三年三月法律第十三號ヲ以テ稅率ヲ次ノ如ク改正シ(四十三年四月一日ヨリ施行)非常特別稅法中狩獵免許稅ニ關スル規定ヲ廢止ス。稅率一等所得稅百圓以上地租五百圓以上若ハ營業稅百五十圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族金三十圓、二等所得稅三圓以上、地租三十圓以上若ハ營業稅二十圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族金十五圓、三等一等二等以外ノ者金四圓

○大正七年四月法律第三十二號ヲ以テ保護鳥獸ノ制ヲ改メテ禁止狩獵ノ主旨ニ從ヒ狩獵シ得ヘキ鳥獸ノ種類ヲ定メ稅率ヲ改正シ大正八年九月一日ヨリ施行ス

稅率一等金四十五圓二等金二十圓三等金五圓

○大正十一年四月法律第七十四號ヲ以テ禁獵ノ範圍ヲ擴張シテ單ニ狩獵ノミナラス汎ク捕獲ヲ爲スコトヲ禁止スルノ規定ヲ設ケ稅率ヲ現行ノ如ク改正ス

酒造稅

(明治三十九年三月法律第二十八號)

○稅率

第一種　酒精分二十三度以下ノ濁酒……一石ニ付三十六圓

第二種　酒精分二十三度以下ノ清酒、白酒及酒精分三十度以下ノ味淋燒酎……一石ニ付四十圓

第三種　酒精分三十度ヲ超エ四十五度以下ノ燒酎……一石ニ付{前號ノ金額ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度毎ニ一圓五十錢ヲ加ヘタル金額}

第四種　酒精分二十三度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎……一石ニ付酒精分一度毎ニ一圓八十錢

東京府小笠原島、伊豆七島……酒造稅法第四條ノ稅率ノ一分ノ三分ノ中ニ含有スル○·七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量百分原容量十五度ノ時ニ於テ攝氏檢溫器ヲ以テ酒精分ト稱スルハ酒精ノ容量トス

○納　期

第一期　其年七月同十六日ヨリ三十一日限　前年十月一日ヨリ其年四月三十日迄査定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第二期　其年十月同十六日ヨリ三十一日限　同上

第三期　翌年二月同十六日ヨリ二十八日限　同上及其年五月一日ヨリ九月三十日迄査定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期　翌年三月同十六日ヨリ三十一日限　前納額ノ殘數

○明治元年五月會計官布達ヲ以テ古來ノ酒造鑑札ヲ改メ酒造規則五箇條ヲ制定シ造石數ニ依リ納稅金額ヲ定メ並ニ增造減造ノ方法ヲ定ム

造酒百石ニ付一時冥加卽チ免許料金二十兩トス之レ明治維新以來酒稅ニ關シテ規定ヲ設ケタル嚆矢トス

○明治元年九月造酒高百石未滿ノモノ百石迄ノ增造ヲ許シ及百石以上ノ株高分株ヲ許可ス

○明治元年十一月關東諸國ニ限リ一時冥加高ノ外別ニ年々冥加百石ニ付五兩ヲ併課ス之レ關東諸國ハ他國ニ比シ利潤多カルヘシト認メタルニ因ル

○明治元年十二月年々冥加金納付方ヲ一定シ其年十月限大總代ヲシテ取纏メ會計官ニ上納セシムルコトトス

○明治二年十二月民部省達ヲ以テ酒造並ニ濁酒造株鑑札渡方竝酒造濁酒株鑑札冥加金竝年々冥加上納方ヲ定ム(每百石ニ付酒造株鑑札冥加金十兩、酒造年々冥加金十兩、濁酒株鑑札冥加金十兩、濁酒造年々冥加金七兩)

○明治四年七月布告ヲ以テ清濁酒(醬油)釀造稅則ヲ定メ從前ノ株鑑札ヲ廢シ免許料トシ更ニ免許鑑札ヲ下付ス。新規免許料、清酒、味淋、白酒、其他醋酒各金十兩、濁酒金五兩又免許稅及釀造稅ヲ定メ免許稅ハ造石ノ多少ニ拘ラス稼人一人ニ付每年清酒、味淋、白酒其他醋酒類各金五兩、濁酒一兩二分。釀造稅ハ一年清酒、味淋、白酒、其他醋酒類ヘ各其生酒代金ノ五分、濁酒ハ同三分ト定ム。鑑札侑

賣買ノ節證印稅トシテ賣價代金百分ノ二鑑札ヲ燒失又ハ盜難等ノ爲メ再渡ヲ受クル者ハ免許料ノ半額ヲ收メシム

○明治六年二月太政官指令ヲ以テ酒造規則中收稅ニ係ル分ハ北海道ニ限リ當分便宜ノ處置ニ任スコトトス

○明治六年四月大藏省第六十七號達ヲ以テ醪麹營業免許ノ制ヲ定メ免許鑑札(稅金ハ清酒造ノ半額)ヲ下付ス。同八年二月第二十六號布告但書ヲ以テ同年九月三十日限リ濁酒醪麹ノ稅ヲ廢止ス

○明治六年九月租稅寮伺指令ヲ以テ燒酎ハ銘酒ニ準シ課稅スルコトト定ム

○明治六年十二月大藏省達第百七十四號ヲ以テ鑑札下付及稅金上納期ヲ改正ス

1. 鑑札下渡期日每年十月中　2. 免許料及免許稅其ノ年十月三十一日限　3. 釀造稅凡半分其ノ年四月三十日限殘部其ノ年九月三十日限

○明治八年二月第二十六號布告ヲ以テ前諸令ヲ廢止シ更ニ酒類沒則ヲ制定シ免許料ヲ廢シ免許稅ヲ倍課シテ之ヲ酒造營業稅ト改メ濁酒ノ課稅ヲ免シテ酒類請賣營業者ニ營業稅ヲ賦課ス(酒造營業稅一酒種ニ付一期金十圓、酒類請賣營業稅一期金五圓、釀造稅酒類賣捌代價十分ノ一、免許鑑札書替手數料金二十錢)

○明治八年五月大藏省第七十六號達ヲ以テ葡萄酒竝ニ麥酒類ノ釀造稅ハ當分之ヲ免除シ營業稅ハ成規ノ通トス

○明治十年十二月第八十一號布告ヲ以テ酒類稅則ニ追加改正ヲ爲シ再ヒ濁酒稅ヲ賦課シ又酒類請賣營業者ノ卸小賣ヲ分チ且行商ニハ行商鑑札ヲ携帶セシム(濁酒營業稅每一期ニ付金五圓釀造稅賣捌代金二十分ノ一。酒類請賣營業稅卸賣年々金十圓、小賣年々金五圓、酒類行商鑑札料金十錢、鑑札書替手數料一枚金十錢)

○明治十一年九月第二十八號布告ヲ以テ酒類稅則中稅率及納期ヲ改正シ釀造稅ヲ賣買價格ニ比例セシムルノ法ヲ廢シ其ノ造石高ニ課稅スルコトニ改メ各酒ノ稅率ヲ定メ同年十月一日ヨリ施行ス

稅率。每一石ニ付清酒金一圓、濁酒金三十錢、白酒金二圓、味淋金二圓、燒酎金一圓五十錢、銘酒金三圓

納期。釀造稅ハ每年四月三十日限リ見込石數ノ半額殘餘ハ九月三十日限リ見込石數ノ半額殘餘ハ九月三十日限ト定ム

○明治十二年二月大藏內務兩省乙第十二號達ヲ以テ醫藥用外ノ藥品ヲ配伍スル酒類ハ總テ稅則ニ準據課稅ス

○明治十三年九月第四十號布告ヲ以テ酒類稅則ヲ廢止シ酒造稅則ヲ制定シ從來ノ請賣營業稅ノ制ヲ廢シ酒類一種每ニ酒造免許稅ヲ徵收シタルヲ改メ一酒造場每ニ酒造免許稅ヲ課スルコトトシ釀造稅ヲ改メテ造石稅トシ稅率ヲ高メ自家用料酒ノ造石高ヲ一箇年一石以下ニ制限ス

葡萄酒麥酒類製造ハ免許稅ヲ課シ造石稅ハ之ヲ免除ス(酒造免許稅製造場一箇所ニ付每年金三十圓。酒類造石稅一類釀造酒(清酒、濁酒、其他釀造シタルモノ)ハ一石ニ付金二圓、二類蒸溜酒(燒酎、其他蒸溜シタルモノ)ハ之ヲ基トシ製造シタルモノ)ハ同金三圓、三類(再製酒、銘酒、味淋、白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ混和シ製造シタルモノ)ハ同金四圓、醪麹營業稅ハ製造場一箇所每ニ五十圓。納期。第一期其年四月三十日限「前年十月一日ヨリ其年三月三十一日迄檢查濟石數ニ係ル稅額ノ半額」第二期、其年七月三十一日限「其年四月一日ヨリ其年六月三十日迄檢查濟石數ニ係ル稅額ノ半額」第三期、其年九月三十日限「其年七月一日ヨリ皆造迄檢查石數ニ係ル稅額竝前納額ノ殘額」)

○明治十五年三月第十七號布告ヲ以テ從來酒精ハ燒酎ト同一ニ看做シ來リタルヲ酒精ハ免許ヲ與ヘサルコトトシ自家用料酒ニハ免許鑑札料ヲ徵シ其ノ製造シタル酒類ノ賣買ヲ禁シ併セテ酒稅取締ノ方法ヲ改正シ諸種ノ罰則ヲ定メ同十六年十月ヨリ施行ス酒造免許稅。酒造場一箇所ニ付金三十圓酒類造石稅。一類釀造酒一石ニ付金四圓、二類蒸溜酒同金五圓、三類再製酒同六圓、自家用料酒鑑札一枚金八十錢一家一箇年一石ヲ超過スルヲ得ス造石高ノ制限、清酒百石以上濁酒十石以上一類(清酒濁酒ヲ除ク)二類、三類五石以上

○明治十六年十二月布告第四十二號ヲ以テ酢造營業者ノ酢元ニ供スル酒類ニ對シ酒造稅則ヲ準用スルコトトス

○明治十九年七月勅令第六十一號ヲ以テ酒造稅則ニ改正ヲ加ヘ自家用料ノ清酒ヲ製造スルコトヲ禁シ自家用酒ハ濁酒ノミノ製造ニ止メ同年十月一日ヨリ施行ス

○明治十九年十二月勅令第七十九號ヲ以テ第三期造石稅納期九月三十日ヲ十月三十一日限ニ改ム

○明治二十二年九月法律第二十四號ヲ以テ北海道ニ於ケル酒造稅ハ明治六年以降適宜ノ處分ニ任セタリシヲ以テ函館支廳所在ノ地以外各地方適宜ノ法令ヲ發シ稅率ノ如キモ一般稅率ニ比シ低率ヲ用ヰ取締法モ亦寬宥ニ過キタル爲メ新ニ特別ノ稅率ヲ定メ同年十月一日ヨリ酒造稅則ヲ施行ス(酒造免許稅酒造場一箇所ニ付金二十圓、酒類造石稅每一石ニ付釀造酒金二圓、蒸溜酒金三圓、再製酒金四圓)

○明治二十三年七月法律第四十九號ヲ以テ酒造稅則中納期區分ノ三期ナリシヲ四期ニ改メ同年十月一日ヨリ施行ス

第一期　四月十五日限(十月一日ヨリ一月三十一日マテ檢查濟石數ニ係ル稅額ノ半額)
第二期　八月十五日限(二月一日ヨリ五月三十一日マテ檢查濟石數ニ係ル稅額ノ半額)
第三期　十一月十五日限(六月一日ヨリ九月三十日マテ檢查濟石數ニ係ル稅額ノ半額竝第一期第二期ニ係ル殘納額ノ半數)
第四期　翌年一月十五日(前納額ノ殘額)

○明治二十六年四月法律第十七號ヲ以テ酒精營業稅法ヲ制定シ酒造稅則ニ依ル造石稅ノ外ニ酒精營業稅ヲ課シ同年七月一日ヨリ施行ス(稅率酒精販賣高一石ニ付金二十五圓トシ翌年一月三十一日限納付セシム但シ醫藥用工業ニ供スルモノハ營業稅ヲ免除ス)

○明治二十九年三月法律第二十八號ヲ以テ酒造稅法ヲ制定シ同年十月一日ヨリ施行シ酒造稅則、醪麹營業稅則及酢元ニ供スル酒類ニ關スル規定ヲ廢止ス尙別ニ混成酒稅法及自家用酒稅法ノ制定ヲ見タリ(混成酒稅法ハ明三十四年三月酒精及酒精含有飮料稅法ニ改メ自家用酒稅法ハ明治三十二年一月一日以後之レヲ廢止スルニ至リタリ)

其ノ要領次ノ如シ

1. 酒類區分及造石稅。第一種清酒、白酒、味淋一石ニ付金七圓、第二種濁酒同六圓、第三種燒酎酒精同八圓但シ當分ノ內北海道渡島國一圓後志國ノ內八郡膽振國ノ內一郡山越郡ヲ各種一石ニ付一圓ヲ減ス
2. 造石高ノ制限。清酒ニ限リ百石以上トス
3. 納期ノ改正。第一期七月一日ヨリ同十五日限(前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ查定石數ニ係ル稅額四分ノ一)第二期九月一日ヨリ同十五日限(同上)
第三期翌年一月一日ヨリ同十五日限(同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ查定石數ニ係ル稅額二分ノ一)第四期翌年三月一日ヨリ同十五日限(前納額ノ殘數)
4. 清酒ニ對シ滓引減量百分ノ二控除ノ制ヲ設ク
5. 一般ニ納稅保證提供ノ制ヲ定メ造石稅半額ニ相當スル保證物ヲ提供セシム
6. 從前ノ免許稅ヲ廢ス
7. 制裁規定ヲ完備ス

○明治二十九年三月法律第二十九號ヲ以テ自家用酒稅法ヲ制定シ同年十月一日ヨリ施行シ併セ

テ同十九年八月勅令第六十號ヲ以テ酒稅用酒ハ稅率ヲ減シ自家用酒稅ヲ廢止ス(自家用酒稅ヲ納メサル者及納稅額五圓未滿ニシテ造石數一石ヲ超エサル者ノ金二圓、直接國稅五圓以上十圓未滿ノ者一石ニ付金二圓三圓ヲ納メサル者及納稅額五圓未滿ニシテ造石數一石ヲ超エサル者ノ金二圓、直接國稅十圓以上ヲ納メサル者及納稅額十圓未滿ニシテ造石數一石ヲ超エサル者ノ金二圓五圓ヲ納メサル者及納稅額五圓未滿ニシテ造石數一石ヲ超エサル者ノ金二圓八圓)

○明治三十一年十二月法律第二十三號ヲ以テ酒造稅法中造石稅及納期其ノ他ヲ改正シ同年一月一日ヨリ施行ス

1. 稅率。第一種清酒、白酒、濁酒、味淋一石金十二圓。第二種燒酎同金十三圓但シ攝氏驗溫器ノ度ノ五十五度ヲ超過スルトキハ百分ノ一ヲ增ス每ニ前記金額ニ金一圓ヲ加フ

2. 納期。第一期七月十六日ヨリ同三十一日限第二期十月十六日ヨリ同三十一日限、第三期翌年二月十六日ヨリ同二十八日限、第四期翌年三月十六日ヨリ同三十一日限

3. 納稅保證書ハ一酒造年度見込石數一石ニ付金四圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スルモノヲ豫メ提供スルコト

4. 免許制限石數ヲ清酒百石以上濁酒五十石以上燒酎酒精五石以上ニ改ム

○明治三十四年三月法律第七號ヲ以テ酒造稅法中稅率其他ヲ改正シ同年十月一日ヨリ施行ス

1. 酒類造石稅ヲ酒精含有量ニ依リ區分ス第一種酒精分二十度以下ノ清酒、濁酒、白酒、味淋及甘藷ヲ原料トシテ製造シタル燒酎ニシテ酒精分三十度以下ノモノ一石ニ付金十五圓。第二種酒精分四十度以下ノ燒酎同金十六圓、第三種酒精分二十度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎同酒精分一度每ニ金七十五錢

2. 酒精分ノ意義ヲ規定ス

3. 酒精造石稅ニ關スル規定ヲ創リ別ニ酒精含有飲料稅法ニ規定ス

○明治三十四年三月法律第十號ヲ以テ酒精酒類其ノ他輸出下戻金ニ關スル件ヲ定メ同年十月一日ヨリ施行ス

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ第一種及第二種ノ酒類各一石ニ付金五十錢第三種同酒精分一度每ニ金二錢五厘ノ增徵ヲ課シ同年四月一日マリ施行ス

○明治三十八年一月法律第三號ヲ以テ酒造稅法中ニ酒類ノ定義ヲ定メ稅率ヲ改正シ明治三十八年一月一日ヨリ施行ス(第一種酒精分二十度以下ノ清酒、濁酒、白酒、味淋及酒精分三十度以下ノ燒酎一石ニ付金十五圓、第二種酒精分三十五度以下ノ燒酎同金十八圓、第三種酒精分四十度以下ノ燒酎同金二十圓、第四種酒精分四十五度以下ノ燒酎同二十三圓、第五種酒精分二十度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎同酒精分一度每ニ金七十五錢)

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法ニ改正ヲ加ヘ酒造稅ノ增徵ヲ第一種、第二種、第三種及第四種ハ各一石ニ付金二圓、第五種ハ一石ニ付酒精分一度每ニ金十錢ト改ム

○明治四十一年三月法律第十八號ヲ以テ稅率其他ヲ下ノ如ク改正シ同年三月十六日ヨリ施行シ並沖繩縣及東京府小笠原島伊豆七島ヘ同年十月一日ヨリ本法ヲ施行シ同時ニ非常特別稅法中酒造稅ニ關スル規定ヲ廢止ス

1. 稅率

第一種　酒精分二十度以下ノ清酒、濁酒、白酒及酒精分三十度以下ノ味淋燒酎‥‥‥

4. 納稅保證一酒造年度見込數石一石ニ付金七圓四圓ノ割合ヲ以テ高ニ算ム

5. 原料用酒類ニ稅課セサル旨ヲ規定シ用途變更ノ場合ハ檢定石數ニ依リ課稅スルコトトス

6. 新ニ燒酎ニ對シ貯藏減量百分ノ一ヲ控除スル旨ヲ規定ス

○大正九年七月法律第十七號ヲ以テ明治四十一年法律第二十四號第一條中沖繩縣ヲ創リ同年八月一日ヨリ施行ス同時ニ沖繩縣酒類出港稅則(稅率酒造稅法第四條ノ稅率ノ三分ノ二。納期酒類ヲ他府縣ヘ移出スルトキ)ヲ廢止ス

○大正十一年三月法律第十六號ヲ以テ酒造稅法第八條澤引減量又ハ貯藏減量ヲ控除スル石數ノ檢定ニ關シ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十五年三月法律第十四號ヲ以テ稅率其他ヲ下ノ如ク改正シ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

1. 稅　率

第一種　酒精分二十三度以下ノ濁酒……一石ニ付三圓六十錢

第二種　酒精分二十三度以下ノ清酒、白酒、及酒精分三十度以下ノ味淋燒酎……一石ニ付四十圓

第三種　酒精分三十度ヲ超エ四十五度以下ノ燒酎……一石ニ付前號金額ノ金額ニ酒精分三十度ヲ超ユル毎一度毎ニ一圓五十五錢ヲ加ヘタル金額

第四種　酒精分二十三度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎……一石ニ付酒精分一度毎ニ一圓八十錢

2. 政府ハ酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合ニ對シ徵收上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得其ノ酒造組合ニ對シテハ每酒造年度間ニ於テ所屬組合員ノ製造酒類中造石數ヲ查定シタル酒類ノ查定石數(澤引減量又ハ貯藏減量ヲ控除シタルモノ)十石ニ付一圓ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ノ交付金ヲ交付スルコトトス

3. 沖繩縣ニ於テ製造スル酒類ニ付テハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ラシム

沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ヘ移出スルトキハ其ノ造石稅ト本法ニ規定スル造石稅トノ差額ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課スコトトス

酒精及酒精含有飲料稅

(明治三十四年三月法律第八號酒精及酒精含有飲料稅法)

○稅　率　造石稅　一石ニ付　原容量百分中純酒精ノ容量一箇每ニ……一圓八十錢

但シ一石ニ付四十二圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス

○納　期……其月中ノ查定石數ニ依リ翌月中

○明治二十九年三月法律第三十號ヲ以テ酒稅法中ニ改正ヲ加ヘ酒精又ハ酒精含有飲料稅ヲ造石稅ニ改メ同年十月一日ヨリ施行ス(造石稅一石ニ付三圓金六圓)

○明治三十一年十二月法律第二十五號ヲ以テ稅率ヲ改正ス(造石稅一石ニ付金三圓三十錢ニ增ス每一度ニ超過スルトキハ其ノ超過セル一度毎ニ金額ニ金一圓ヲ加フ)

○明治三十四年三月法律第八號ヲ以テ酒精及酒精含有飲料稅法ヲ制定シ同年十月一日ヨリ施行シ同時ニ混成酒稅法ヲ廢止ス

稅率及納期。造石稅酒精又ハ酒精含有飲料一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇每ニ五十七錢但シ一石ニ付十六圓ヲ下ルコトヲ得ス。納期每月中ノ查定石數ニ依リ翌月中納付ス

無免許製造、免查定逋稅等ニ對スル罰則ノ外酒造稅法ニ準シ免稅其ノ他ノ規定ヲ設ク

○明治三十四年三月法律第十號ヲ以テ酒精酒類其ノ他酒精含有飲料輸出下戻金ニ關スル件ヲ定メ同年十一月一日ヨリ施行ス

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ酒精又ハ酒精含有飲料ノ原容量百分中純酒精ノ容量二十ヲ超ユルモノニ對シ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇每ニ二錢五厘ノ增徵ヲ課ス

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法中ニ改正ヲ加ヘ酒精又ハ酒精含有飲料ノ稅率ヲ原容量百分中純酒精ノ容量二十以下ノモノ一石ニ付二圓、同二十ヲ超ユルモノ同原容量百分中純酒精ノ容量一箇ニ付十錢ト改ム

○明治三十八年一月法律第四號ヲ以テ葡萄酒及果實酒ノ定義ヲ定メ之ヲ非課稅トス

○明治三十九年四月法律第四十六號ヲ以テ工業用酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法ヲ制定シ醫藥用工業用酒精戻稅法ヲ廢止ス

○明治四十一年三月法律第十九號ヲ以テ同稅法中ニ改正ヲ加ヘ稅率ヲ次ノ如ク改メ非常特別稅法中酒精及酒精含有飲料稅ニ對スル增徵ヲ廢止ス

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇每ニ一圓ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付二十一圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス

○明治四十三年三月法律第六號ヲ以テ酒精造石稅徵收猶豫及免稅ニ關スル規定ヲ定メ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正七年三月法律第七號ヲ以テ稅率ヲ造石稅一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇每ニ一圓但シ一石ニ付二十四圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得スト改正シ尙三箇年以上ニ亘ル休業者ノ免許取消ニ關スル規定ヲ追加シ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正九年七月法律第十五號ヲ以テ稅率ヲ下ノ如ク改正シ同年八月一日ヨリ施行ス

稅　率　造石稅　一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇每ニ一圓五十錢

但シ一石ニ付三十五圓ヲ下ルコトヲ得ス

○大正十五年三月法律第十六號ヲ以テ稅率其他ヲ改正シ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

1. 稅率造石稅一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇每ニ一圓八十錢

但シ一石ニ付四十二圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス

2. 第四條中ニ清涼飲料ヲ加フ

麥酒稅

(明治三十四年三月法律第十二號麥酒稅法)

○稅　率　造石稅……一石ニ付……二十五圓

○納　期……其ノ月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ

中月翌リ依ニ數石定査ノ中月其

○明治三十四年三月法律第十二號ヲ以テ麥酒稅法ヲ制定シ同年十月一日ヨリ施行ス(麥酒一石ニ付金七圓、納期每月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ一時ニ納付ス)

○明治三十四年三月法律第十號ヲ以テ課稅セラレタル酒精、酒類其ノ他酒精含有飮料又ハ麥酒輸出下戻金ニ關スル法律ヲ定メ同年十月一日ヨリ施行ス

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ麥酒一石ニ付金五十錢ノ增徵ヲ課ス

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法中ヲ改正シ麥酒稅ノ增徵ヲ一石ニ付金一圓ト改ム

○明治三十八年一月法律第五號ヲ以テ麥酒ノ定義ヲ規定シ稅法上ノ支配關係ヲ明ニス

○明治四十一年三月法律第二十號ヲ以テ稅率ヲ造石數一石ニ付金十圓ト改メ免許制限石數ヲ一箇年千石以上ト定メ又無免許犯ニ對スル沒收ノ附加刑免許ノ强別取消ヲ爲シ得ル場合ヲ規定シ尙非常特別稅法中麥酒稅ノ增徵ヲ廢止ス

○大正七年三月法律第八號ヲ以テ稅率ヲ造石數一石ニ付十二圓ト改正シ三年以上引續キ休造ノ者ニ對スル免許取消ヲ爲シ得ル規定ヲ追加シ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正九年七月法律第十六號ヲ以テ稅率ヲ一石ニ付十八圓ト改正シ同年八月一日ヨリ施行ス

○大正九年八月法律第五十八號ヲ以テ麥酒ノ定義ヲ擴張シ原料ニ馬鈴薯及澱粉ヲ加ヘ同年八月一日ヨリ施行ス

○大正十五年三月法律第十七號ヲ以テ稅率ヲ一石ニ付二十五圓ト改正シ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

清涼飮料稅

(大正十五年三月法律第十六號清涼飮料稅法)

○稅　率

第一種　玉ラムネ壜詰ノモノ……一石ニ付……七圓

第二種　其ノ他ノ壜詰ノモノ……一石ニ付……十圓

第三種　壜詰以外ノモノ……炭酸瓦斯使用量一瓩ニ付……三圓

○納　期……其ノ月中ノ移出高ニ依リ翌月中

○大正十五年三月法律第十六號ヲ以テ清涼飮料稅法ヲ制定シ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス其ノ要領次ノ如シ

1. 炭酸瓦斯ヲ含有スル清涼飮料ニ對シテ清涼飮料稅ヲ創設ス

2. 炭酸瓦斯ヲ含有セサルモノ(シロツプ、カルピスノ如キモノ)、全重量中萬分ノ五以下ノ炭酸瓦斯ヲ含有スルモノ全重量中百分ノ一以上ノ酒精ヲ含有スルモノニハ課稅セス

3. 稅率ヲ下ノ如ク定ム

第一種　玉ラムネ壜詰　一石ニ付七圓

第二種　其ノ他ノ壜詰　一石ニ付十圓

第三種　壜詰以外ノモノ　炭酸瓦斯使用量一瓩ニ付三圓

4. 清涼飮料ノ製造ハ免許ヲ受ケシムルコトトシ清涼飮料稅ハ第一種及第二種ノ清涼飮料ニ付テハ製造場外ニ移出セラレタル石數ニ應シ第三種ノ清涼飮料ニ付テハ製造場外ニ移出セラテタル清涼飮料ニ使用セラレタル炭酸瓦斯ノ量ニ應シ清涼飮料製造者ヨヨリ之ヲ徵收ス

5. 製造者ヲシテ每月製造場ヨリ移出シタル數量ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告セシメ其ノ申告數量ヲ基礎トシテ課稅ス

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府課稅標準額ヲ決定ス

6. 稅金ハ每月分ヲ翌月末日迄ニ納付セシム

7. 其ノ他徵收、取締等ニ關スル規定ハ大體他ノ消費稅ニ準ス

8. 自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル清涼飮料ノミヲ製造スル者ニハ本法ヲ適用セス

砂糖消費稅

(明治三十四年三月法律第十三號砂糖消費稅法)

○稅　率

1. 砂　糖

第一種　砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲　樽入黑糖……百斤ニ付一圓

乙　樽入白下糖　但シ分蜜シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク……百斤ニ付二圓

丙　其ノ他ノモノ……百斤ニ付二圓五十錢

第二種　砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ糖砂……百斤ニ付五圓

第三種　同上……第二十二號未滿ノ砂糖　百斤ニ付七圓三十錢

第四種　同上……第二十二號以上ノ砂糖　百斤ニ付八圓三十五錢

第五種　氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ……百斤ニ付十圓

2. 糖　蜜

第一種　砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エサルモノ……百斤ニ付三圓

乙　其他ノモノ……糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付八圓三十五錢ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

第二種　其ノ他ノ糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エサルモノ……百斤ニ付一圓

乙　其ノ他ノモノ……百斤ニ付二圓十五錢

3. 糖　水……百斤ニ付七圓三十五錢

○納　期

砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキハ又ハ保稅地域ヨリ製造場

○明治三十四年三月法律第十三號ヲ以テ本法ヲ制定シ同年十月一日ヨリ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 課稅ノ時期。內地ニ於テ消費スル砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ルトキ課稅ス

2. 稅率。第一種砂糖色相和蘭標本第八號未滿ノ砂糖及糖蜜百斤ニ付金一圓、第二種標本第八號以上第十五號未滿ノ砂糖同金一圓六十錢、第三種同標本第十五號以上第二十號以下ノ砂糖及糖水同金二圓二十錢、第四種同標本第二十號ヲ超ユル砂糖及氷砂糖同金二圓八十錢

3. 徵收猶豫。內地消費ノ目的ヲ以テ引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ニシテ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六箇月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫ス

內地消費ノ目的ニ非スシテ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水モ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要シ引取後六箇月以內ニ外國輸出ノ證明ナキモノハ內地消費ニ供セラレタルモノト看做シ擔保ヲ以テ消費稅ニ充ツルモノトス

4. 消費稅ノ戾稅及免除。外國輸出ノ目的ヲ以テ引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ニシテ引取リタル後六箇月以內ニ外國輸出ノ證明書ヲ提出シタルモノノ內消費稅ヲ免除シ又政府ノ承認ヲ受ケ納稅ヲ消費稅ニ相當スル金額ヲ下付ス

5. 其ノ他收稅官吏ノ檢查處分範圍、處罰規定等ヲ規定ス

○明治三十五年三月法律第二十一號ヲ以テ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料糖ノ稅ノ件ヲ定ム

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ第一種百斤ニ付金一圓、第二種同金三圓、第三種同金三圓三十錢、第四種同金三圓七十錢ノ增徵ヲ課ス但シ十月以降ハ第一種ハ第一種ノ增徵率ヲ加ヘ第二種ノ增徵ヲナク第一種ニ付金二圓三十錢ノ增徵トス

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法ニ改正ヲ加ヘ增徵率ヲ第一種百斤ニ付金一圓、第二種同金二圓八十錢、第三種同金四圓三十錢、第四種同金四圓七十錢ト改ム

○明治三十八年二月法律第二十六號ヲ以テ原料糖トシテ引取リタル砂糖及糖蜜ニシテ六箇月以內ニ原料ニ供セサル場合ハ政府ノ承認ヲ受ケ免除スルコトニ改正ス

○明治四十一年二月法律第一號ヲ以テ稅率ヲ第一種百斤ニ付金三圓、第二種同金五圓十錢、第三種同金八圓五十錢、第四種同金十圓ニ改メ(同年二月二十二日ヨリ施行)非常特別稅法中砂糖消費稅ニ關スル規定ヲ廢止ス

○明治四十一年三月法律第二十七號ヲ以テ製乳原料砂糖戾稅法ヲ制定シ同年四月一日ヨリ施行ス

○明治四十二年三月法律第八號ヲ以テ輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法ヲ制定シ同年四月一日ヨリ施行ス

○明治四十二年四月法律第二十號ヲ以テ第一種ノ稅率ヲ甲樽入黑糖百斤ニ付金二圓、乙其ノ他ノモノ同金三圓ト改ム

○明治四十三年四月法律第三十三號ヲ以テ稅率ヲ砂糖第一種砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖甲樽入黑糖百斤ニ付金二圓、乙其ノ他ノモノ同金三圓、第二種同第十五號未滿ノ砂糖百斤ニ付金五圓、第三種同上第十八號未滿ノ砂糖同金七圓、第四種同上第二十一號未滿ノ砂糖同金八圓、第五種同上第二十一號以上ノ砂糖同金九圓、第六種氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ同金十圓、糖蜜。第一種氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜甲百斤ニ付金三圓、乙其ノ他ノモノ糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付九圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額、第二種其ノ他ノ糖蜜甲百斤ニ付金二圓、乙其ノ他ノモノ同上金三圓、糖水。百斤ニ付金八圓ト改正シ同年四月一日ヨリ施行ス

○明治四十四年四月法律第五十七號ヲ以テ第一種ノ稅率ヲ甲樽入黑糖百斤ニ付金二圓、乙樽入白下糖百斤ニ付金二圓五十錢、丙其ノ他ノモノ百斤ニ付金三圓ト改正シ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正五年四月法律第三十八號ヲ以テ本法中從來外國輸出ノ砂糖ニ對シ稅額相當ノ擔保提供ノ強行規定ナリシヲ之ヲ任意規定ニ改メ又糖蜜ハ其ノ用途ノ如何ニ拘ラス課稅スルヲ食用ニ供セサル糖蜜ニハ課稅セサルコトニ倘課稅濟ノ砂糖ヲ以テ糖水ヲ製造スルトキハ課稅セサルコト其ノ他ニ改正ヲ加フ但シ稅率ニハ異動ナシ

○昭和二年三月法律第九號ヲ以テ稅率ヲ現行ノ通改正シ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

庶民階級ノ需要品タル第一種糖中黑糖一圓白下糖五十錢ヲ輕減シ第二種糖、第三種糖ノ區分ヲ廢シ之ニ從來ノ第四種糖、第五種糖及糖蜜、糖水ニ對シテモ稅ヲ減ジ從來ノ第二種糖ノ稅率ヲ課シ從來ノ第四種糖ニ從來ノ糖階ノ稅率ヲ爲シタリ

織物消費稅

（明治四十三年三月法律第七號織物消費稅法）

○稅　率……織物價格百分ノ十

○納　期……製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ

○明治三十七年三月法律第三號非常特別稅法中ニ於テ新ニ毛織物消費稅ヲ創定シ同年四月一日ヨリ施行ス(稅率毛織物價格百分ノ十五)

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法ニ改正ヲ加ヘ織物消費稅ヲ毛織物價格百分ノ十五其ノ他ノ織物價格百分ノ十ト改ム

○明治三十九年三月法律第七號ヲ以テ非常特別稅法中「平和克復後ニ至リタルトキハ其ノ翌年末日限リ本法ヲ廢止ス」トノ本稅賦課期限ノ規定ヲ削除シテ之ヲ無期限ト爲シタリ

○明治四十三年三月法律第七號ヲ以テ織物消費稅法ヲ制定シ同年四月一日ヨリ施行シ同時ニ非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ヲ廢止ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 稅率ハ織物價格ノ百分ノ十

2. 納期及納稅者ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘキモノトシ製造者ニ於テ織物ニ其ノ價格ヲ表記シ印紙ヲ貼付シテ納付スルコトヲ得

3. 消費稅ハ自己ノ用ニ供スル爲メ自ラ製造シタル織物ニ消費稅ヲ免除シ又ハ家族ノ用ニ供スル爲メ自己ノ計算ニ於テ製造シタル織物ニ消費稅ヲ免除シ外國ニ輸出スル織物及製造者カ自己ノ計算ニ於テ製造シタル織物ニ消費稅ヲ免除シ外國ニ輸出セントスル織物又ハ製品トナシテ輸出シタル織物ニ消費稅ヲ免除シ其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ消費稅ヲ免除ス

4. 交付金ハ納稅者カ製造シタル織物ヲ外國ニ輸出シタルトキ又ハ之ヲ以テ製造シタル織物ノ製品ヲ外國ニ輸出シタルトキ消費稅ニ相當スル金額ヲ交付ス

5. 徵收猶豫ハ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ三月以內消費稅ノ徵收猶豫ヲ爲ス

6. 納稅前ノ移出承認

イ、藏置ノ爲引取ルトキ

ロ、加工ノ爲引取ルトキ

ハ、一定ノ場所ニ於テ納稅スル爲引取ルトキ

7. 罰金最低額ノ引上ハ引取、引渡犯等ノ最低罰金額十圓ヲ二十圓ニ引上ク

○大正八年三月法律第三十三號ヲ以テ織物組合ニシテ政府ノ織物查定事務ニ付查定場ヲ提供シ徵稅上ノ補助ヲ爲ス組合ニ對シ其ノ費用ヲ補償スル意味ニ於テ相當ノ金額ヲ交付スル必要アリ本法中ヲ改正シ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ組織スル組合ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ取扱ヒタル織物中消費稅ヲ賦課シタル織物ノ價格ノ千分ノ一以內ノ金額ヲ交付スルコトヲ得ルコトトシ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正十一年三月法律第十七號ヲ以テ織物組合ニ對スル交付金ノ算定標準ハ之ヲ稅法ニ規定シ各組合ノ取扱ニ係ル織物課稅價格ノ昂騰ニ因リ諸物價ノ昂騰ニ依ルコトトナリシ爲メ逐年增加シアル織物課稅價格ニ準據スル關スル規定ヲ總テ命令ニ委任シ適切ニ規定セシムルノ必要アリ本法中第二十二條第二項ヲ改正シ同時ニ勅令第百五十七號ヲ以テ織物消費稅法施行規則第二十九條第二項ヲ改メ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ組織スル組合ニ對シテハ其ノ取扱ヒタル織物ノ課稅價額ノ千分ノ一ヲ相當スル金額ヲ交付スルコトヲ得トシ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正十五年三月法律第二十二號ヲ以テ本法中ヲ改正シ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

其ノ要領下ノ如シ

1. 織物中綿織物ニ對シテハ免稅トス

2. 新ニ綿織物ノ定義ヲ加フ

本法ニ於テ綿織物ト稱スルハ全重量百分中九十五以上ノ綿ヲ以テ組成シ絹、人造絹、金屬絲、金屬線、金屬箔、綿絲又ハ漆箔ヲ交ヘサル織物ヲ謂フ

絹紡、紬絲、芭蕉絲其ノ他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ニシテ命令ノ定ムルモノハ之ヲ綿織物ト看做ス

印紙稅

（明治三十二年三月法律第五十四號印紙稅法）

○稅率

下ニ揭クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通每ニ、帳簿ハ一冊一年以內ノ附込ニ對シ

1 不動產、鐵道財團、軌道財團又ハ船舶ノ所有權移轉ニ關スル證書	記載金高五十圓以下ノモノ	二錢
	同　百圓以下ノモノ	三錢
	同　五百圓以下ノモノ	十錢
2 消費貸借ニ關スル證書	同　千圓以下ノモノ	二十錢
3 請負ニ關スル證書	同　一萬圓以下ノモノ	五十錢
4 運送ニ關スル證書	同　一萬圓ヲ超ユルモノ	一圓
5 傭船契約書	記載金高ナキモノ	三錢

6 委任狀……二錢

7 約束手形 8 爲替手形 9 銀行預金證書 10 產業組合又ハ產業組合聯合會ノ發スル貯金證書 11 產業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ノ發スル出資證券 12 船荷證券 13 運送貨物引換證 14 倉庫證券 15 保險證券 16 株券 17 債券 18 相互保險會社ノ發スル基金證券 19 株式申込證 20 社債申込證 21 地上權、永小作權又ハ地役權ニ關スル證書 22 使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託又ハ定期金ニ關スル證書 23 信託行爲ニ關スル證書 24 無盡ニ關スル證書 25 定款又ハ組合契約書 26 權利ノ變更ニ關スル證書 27 追認又ハ承認ニ關スル證書 28 物品切手 29 受取書 30 質權、抵當權ニ關スル證書 31 前各號以外ノ證書 32 預金通帳……三錢

33 預金通帳以外ノ通帳……五錢

34 判取帳……五十錢

證書ニ金高記載ナキモノ其ノ他ノ證書ニ面ニ標記シアル價額ノ單位ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金額ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

印紙稅額ノ但シ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス印紙ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納付スル稅印押捺ヲ受ケ政府ニ現金ヲ納付シタル場合ニ相當スル代ニ付印紙貼

フルコトヲ得

○明治六年二月第五十六號布告ヲ以テ金子ヲ受取證書證文印紙貼用心得方規則ヲ制定ス

其ノ要領次ノ如シ

凡ソ人民相互ニ諸證文、手形、書附類ヲ以テ後日ノ證據ト爲スヘキモノニ就テハ其書面ニ印紙ヲ貼用シテ取引ヲ爲スヘク明治六年六月一日以後ノ證書ニ右印紙貼用ナキ分ハ出訴スルモ取上ケサル旨ヲ規定ス

稅率。第一類、金高ニ拘ラス都テ一樣ノ印紙ヲ貼用スヘキモノ十圓以上一錢、第二類、金高ニ應シテ次第ニ印紙ヲ增貼スヘキモノ十圓以上ハ一錢トシ十圓ヲ加フル毎ニ一錢ヲ增ス

書面金高十圓ニ滿タサル分ハ印紙ノ貼付ヲ要セス受取書ヲ除クノ外都テ界紙ヲ用フルコト

○明治六年五月第百五十五號布告ヲ以テ贋造再貼用ノ制裁方法及施行上ノ細則稅印押捺每ノ規定ヲナシ印紙貼用額ヲ改メ同年六月一日ヨリ施行ス

○明治六年五月第百九十號布告ヲ以テ證書取替制ヲ定メ人民相互金子ヲ授與スル場合其ノ他諸取引並賣買共十圓以上ノモノハ必ス證書又ハ請取書ヲ取替スヘキコトトス

○明治六年六月第二百二十二號布告ヲ以テ犯則者告發奬勵ノ意味ヲ以テ犯則訴人ニ對シ過料罰金高ノ半額ヲ賞金トシテ下附スヘキ旨ヲ設定ス

○明治六年七月第二百六十二號布告ヲ以テ印紙貼用心得方規則ヲ改正シ帳簿ノ附込期間ヲ一年限トシ倘金高記載ナキ荷物判取帳ノ類ニシテ附込金高ノ計算不能ナルモノノ印稅ヲ總テ五錢トセル外界紙僞造ニ對スル所罰規定ヲ設ク

○明治六年八月第三百十號布告ヲ以テ證券印紙ノ形狀二十五錢、五十錢、一圓ノ三種ハ其形大ニ過キ貼用上不便ナルヲ以テ之カ改正ヲ爲シ明治七年九月一日ヨリ施行ス

○明治七年二月第十四號布告ヲ以テ印紙貼用心得方規則ヲ改正シ貼用印紙ニ消印セサルカ又ハ相當セサル印紙ヲ貼用セル諸證文ヲ交付シタル者ニ對スル規定ヲ爲ス

○明治七年三月第二十六號布告ヲ以テ第十四號布告中ノ「相當セサル」ノ下ニ「不足」ノ字句ヲ加ヘ其ノ意義ヲ明確ナラシム

○明治七年五月第五十六號布告ヲ以テ印紙貼用心得方規則ヲ改正シ帳簿附込期限一ケ年制ヲ改メテ附込金高滿了迄トシ倘金高無限ノ證印ヲ受ケタルモノハ全冊使用シ得ルコトトス

○明治七年七月第八十一號布告ヲ以テ從來ノ規則ヲ廢シ證券印稅規則ヲ制定ス(三類ニ分チ各金額ニ應シ印紙ヲ貼用セシメ且ツ證書帳簿界紙ヲ賣下ク)

○明治七年十二月布告同八年七月布告同年八月布告及同十二年八月布告ヲ以テ證券印稅規則中ニ改正ヲ加フ

○明治十七年五月第十一號布告ヲ以テ證券印稅規則ヲ改正シ舊來ノ證券界紙ヲ全廢シ稅印押捺ヲ許容スルモノヲ定額稅、第二類ハ階級稅トシ其種類及區分ヲ簡明ナラシメ同年七月一日ヨリ施行ス(第一類金高ノ有無多寡ニ拘ハラサルモノ引出小切手、委任狀各五厘。金高記載ナキ約定證文、遺金物證文、跡式讓證文、讓與證文期限ヲ定メサル預リ金證文、耕地小作證文、雇人請合狀、金高記載ナキ諸物品預リ(借用)證文、地所家屋預リ證文、諸物品切手、借地(家)證文、賣買仕切書、保險證文、諸會社株券、送金手形、通帳各一錢。判取帳二十錢。結社約定書一錢。營業ニ關スル送狀、請取書各一錢、但シ通帳ト爲セハ一年一冊ノ附込ニ對シ委任狀一錢、銀行預金證書、船荷證券、運送貨物引換證、倉荷預證券、保險證券、株券、債券、株式申込證、地上權、永小作權、地稅權ニ關スル證書、使用貸借、賃貸借、雇傭寄託、定期金ニ關スル契約證書、定款及組合契約書、權利ノ變更ニ關スル證書、追認承認ニ關スル證書、物品切手、賣買仕切書、送狀、受取書、金高記入ナキ證書、擔保品差入證書、擔保品預證書、通帳各二錢、判取帳二十錢

冊一錢。第二類金高ノ多寡ニ隨フモノ金錢借用證文、地所家屋賣買證文、金高記載アル諸物品預リ(借用)證文、諸物品賣買證文、金錢定期預リ證文、金高記載アル諸般ノ契約證書金高一圓以上二十圓未滿印紙一錢、同五十圓未滿二錢、百圓未滿四錢、百五十圓未滿六錢、二百圓未滿八錢、三百圓未滿十一錢、四百圓未滿十四錢、六百圓未滿二十錢、八百圓未滿二十六錢、千百圓未滿三十二錢、千四百圓未滿三十八錢、千七百圓未滿四十四錢、二千圓未滿五十錢、二千五百圓未滿六十錢、三千圓未滿七十錢、三千五百圓未滿八十錢、四千圓未滿九十錢、四千圓以上一圓、但シ之ヲ通帳ト爲セハ百圓未滿四錢、百圓以上ハ諸證書稅率ニ據ル。金錢當座預リ證文、買物預リ書(小札)一圓以上二十圓未滿一錢、二十圓以上二錢、但シ之ヲ通帳ト爲セハ百圓未滿二錢百圓以上四錢。爲替、荷爲替、約束手形五十圓未滿一錢、百圓未滿二錢、二百圓未滿四錢、五百圓未滿八錢、千圓未滿十五錢、二千圓未滿二十五錢、二千圓以上五十錢)

○明治二十三年四月法律第三十號ヲ以テ證券印稅規則ヲ改正シ小切手手形類ノ裏面ニ記載シタル受取書ニハ印紙貼用ヲ要セサル旨追加規定ス

○明治三十二年三月法律第五十四號ヲ以テ印紙稅法ヲ制定シ證券印稅規則ヲ廢止シ同年四月一日ヨリ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

財產權ノ得喪ヲ證明スヘキ證書帳簿ハ凡テ印紙稅ヲ納ムヘキコトニシ稅率ヲ單純ナラシメ小切手ニ免稅シ各證券ニ稅印押捺ノ途ヲ拓ク等專ラ一般ノ便ヲ圖ルヲ旨トセリ

1. 稅率

(1) 證書ハ一通每ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙貼用但シ其ノ稅額五十圓以上ナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上ク

(2) 爲替手形、約束手形ハ一通每ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ金高二千圓未滿二錢同二千圓以上十錢

(3) 次ノ證書帳簿ニ關シテハ證書ハ一通每ニ帳簿ハ一年一冊ノ附込ニ對シ委任狀一錢、銀行預金證書、船荷證券、運送貨物引換證、倉荷預證券、保險證券、株券、債券、株式申込證、地上權、永小作權、地稅權ニ關スル證書、使用貸借、賃貸借、雇傭寄託、定期金ニ關スル契約證書、定款及組合契約書、權利ノ變更ニ關スル證書、追認承認ニ關スル證書、物品切手、賣買仕切書、送狀、受取書、金高記入ナキ證書、擔保品差入證書、擔保品預證書、通帳各二錢、判取帳二十錢

2. 印紙稅ヲ要セサルモノ

(1) 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿

(2) 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿

(3) 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書

(4) 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金圓物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書

(5) 俸給、給料、歲費、手當金、賞與金、年金、恩給、扶助料及救恤金ノ受取書

(6) 小切手

(7)營業ニ關セサル受取書

(8)金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ送狀受取書賣買仕切書

(9)主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約

(10)證券ノ裏面又ハ手形ノ裏面ニ記載シタル受取書

(11)株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載

(12)手形ノ引受、保證、手形及證券ノ拒絕證書、手形及證書ノ謄本、謄本

爲替手形、約束手形、船荷證券、運送貨物引換證、倉荷預證書、倉荷買入證券、保險證券、株券、債券ハ現金ヲ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

○明治三十四年三月法律第十六號ヲ以テ爲替手形、約束手形ノ稅率金高二千圓未滿(五圓以上)印紙稅二錢同二千圓以上同十錢ヲ倍リ更ニ爲替手形、約束手形一通毎ニ同二錢ト爲シ又稅印ノ押捺ノ範圍ヲ擴張シテ總テノ證書、帳簿ニ及ホスコトトス

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法ニ改正ヲ加ヘ新ニ印紙稅ノ增徵ヲ定ム法第四條ノ證書帳簿(約束手形ヲ除ク)印紙稅一錢。委任狀同一錢。判取帳同五錢。約束手形金額千圓以下同一錢、五千圓以下同四錢、一萬圓以下同十三錢、二萬圓以下同二十八錢、三萬圓以下同五十八錢、五萬圓以下同一圓十八錢、十萬圓以下同二圓三十八錢、十萬圓ヲ超ユルモノ同四圓九十八錢、小切手同一錢

○明治四十年三月法律第二十七號ヲ以テ小切手ノ印紙稅ヲ廢シ約束手形ノ稅率金高千圓以下印紙稅五錢、同五千圓以下同十錢、一萬圓以下同二十錢、同二萬圓以下同五十錢、同三萬圓以下同一圓、同五萬圓以下同二圓、同十萬圓以下同四圓、同十萬圓ヲ超ユルモノ同七圓ニ改メ非常特別稅法中約束手形及小切手ニ關スル規定ヲ廢止シ同年四月一日ヨリ施行ス

○明治四十二年五月法律第四十二號ヲ以テ約束手形ノ稅率金高千圓以下ノ前ニ金高二百圓以下以百圓二高金ニ前ノ下以圓千高金率稅ノ形手束約テ以チ號二十四第律法年二十四治明ノモノ印紙稅三錢ヲ加フ

○明治四十三年三月法律第十四號ヲ以テ委任狀印紙稅一錢ヲ二錢ニ爲替手形以下ノ同ノ二錢ヲ各三錢ニ判取帳ノ同二十錢ヲ二十五錢ニ改メ非常特別稅法中印紙稅ニ關スル規定ヲ廢止シ同年四月一日ヨリ施行ス

○明治四十四年三月法律第十四十一號ヲ以テ非課稅物件ノ範圍ヲ擴張シ同年四月一日ヨリ施行ス

○大正十二年三月法律第十二號ヲ以テ印紙稅法中記載金高五圓以上十圓以上ヲ十圓以上ト改メ稅額最高限度五十圓ヲ百圓ニ流通頻繁ナル約束手形及物品又ハ有價證券ノ賣買ニ關スル證書ヲ除ク外凡テ三錢ノ定額稅ニ改メ貯蓄又ハ產業ニ關係アル證書、通帳稅率ヲ輕減シテ最低額一錢ノ制ヲ設ケ家族雇人ノ犯則ニ就テハ科金ノ最低額ヲ三圓ニ引上ケ倘ホ名義人ノ簿帳書證ニ關スル罰則規定ヲ變更シ大正十二年四月一日ヨリ施行ス

○大正十三年七月法律第十五號ヲ以テ復興貯蓄債券ニハ印紙稅ヲ課セサル旨ヲ規定シ公布ノ日ヨリ施行ス

○大正十四年三月法律第二十二號ヲ以テ本法中改正重要輸出品工業組合同聯合會及輸出組合ノ發スル出資證券ニ對シ三錢ノ定額印紙稅ヲ課スル旨ヲ規定シ同年九月一日ヨリ施行ス

○昭和二年三月法律第七號ヲ以テ印紙稅法中改正シ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 從來ニ於テハ比例稅ト定額稅トノ制度ヲ併用シ來リタルモ比例稅ハ官民共ニ煩ヲ感スル要ヲ以テ之ヲ廢止シ定額稅ニ改ム

2. 下ノ證書ハ從來比例稅ヲ課シタルモ之ヲ階級定額稅ニ改ム

消費貸借證書 請負契約書 不動產又ハ船舶ノ讓渡ニ關スル證書 傭船契約書	記載金高五十圓以下	二錢
	同 百圓以下	三錢
	同 五百圓以下	十錢
	同 千圓以下	二十錢
	同 一萬圓以下	五十錢
	同 一萬圓ヲ超ユルモノ	一圓

3. 下ノ證書ハ從來比例稅ヲ課シタルヲ之ヲ定額稅ニ改ム

不動產又ハ船舶ノ賃權、抵當權ノ設定ニ關スル證書	三錢
特ニ揭ケサル證書	三錢

4. 下ノ證書ニ對シテハ免稅スルコトトシ第五條ヲ改正追加ス

貯蓄銀行ノ發スル貯金通帳、積金通帳及積金證書、產業組合ノ發スル貯金通帳、產業組合又ハ住宅組合ノ發スル出資證券、農業倉庫證券、賣買仕切書、物品又ハ有價證券ノ賣買ニ關スル證書、送狀、質札、買物通帳、職工勤務通帳

5. 負擔ノ均衡ヲ圖ルト同時ニ上記改正ニ伴フ收入ノ減少ヲ補塡センカ爲ニ通帳(貯金通帳ヲ除ク)三錢ヲ五錢ニ判取帳二十五錢ヲ五十錢ニ引上ク

骨牌稅

(明治三十五年四月法律第四十四號骨牌稅法)

○稅率

骨牌稅……一組毎ニ{麻雀ニ在リテハ……三圓 / 其ノ他ニ在リテハ……五十錢}

ム納ヲ之テシ用貼ヲ紙印ニ裏包ノ牌骨ハ稅牌骨

○明治三十五年四月法律第四十號ヲ以テ本法ヲ制定シ同年七月一日ヨリ施行ス

稅率。	免許料	製造所一箇所毎ニ毎年	六十圓
	骨牌稅	一組毎ニ	二十錢
納期。	免許料	其年一月中	

ハ關稅又ハ間時四十二後造製ハ牌骨ト稅牌骨ハ造製シ又ハ輸入シタルトキハ牌骨ヲ引取ノ前ニ於テ一組毎ニ骨牌ノ包裏ニ印紙ヲ貼付シテ之ヲ納ム倉庫ヨリ引取ノ前ニ於テ一組毎ニ骨牌ノ包裏ニ印紙ヲ貼付シテ之ヲ納ム

ハテ付ニ牌骨スル供ニ本見ノノ爲ヲ賣販又ハ造製ノ牌骨スル出輸ニ國外。規定除外ノ見本ノノモノ

セス用適ヲ法本ハ本ニ牌骨タル得ヲ許認ノ府政及多留加歌多留加歌伊呂波シ除及免

○大正十五年三月法律第二十號ヲ以テ本法ヲ改正シ免許料ヲ廢シ新ニ麻雀ニ在リテハ一組毎ニ三圓ノ課稅ヲ爲シ其ノ他ノモノニ在リテハ一組毎ニ五十錢ヲ引上ケ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

登　錄　稅

（明治二十九年三月法律第二十七號登錄稅法）

○稅　率

1 不動產ニ關スル登記　（第二條）

1 相續ニ因ル所有權ノ取得……不動產價格　千分ノ五

2 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得……不動產價格　千分ノ四十五

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ寄附行爲ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ第二十八條第二百七十六條若ハ第二百七十七條ノ規定ニ依リ所有權ヲ取得シタルトキハ……不動產價格　千分ノ二十五

3 前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得……不動產價格　千分ノ三十三

4 所有權ノ保存……不動產價格　千分ノ五

5 共有物ノ分割……分割ニ因リテ受クル不動產ノ價格　千分ノ五

6 地上權、永小作權又ハ賃借權ノ取得

存續期間十年以下ノモノ……不動產價格　千分ノ一

同　二十年以下ノモノ……不動產價格　千分ノ二

同　三十年以下ノモノ……不動產價格　千分ノ四

同　五十年以下ノモノ……不動產價格　千分ノ七

同　七十年以下ノモノ……不動產價格　千分ノ十

同　百年以下ノモノ……不動產價格　千分ノ十五

同　百年ヲ超ユルモノ……不動產價格　千分ノ二十

存續期間ノ定メナキモノ……不動產價格　千分ノ一

存續期間ノ定メナキモノニシテ民法第百六十八條若ハ第二百七十八條第二項ノ規定ノ適用アルモノ又ハ借地法第一條ノ規定ノ適用アルモノ……不動產價格　千分ノ四

相續ニ因ル取得ニシテ存續期間三十年ヲ超ユルモノ……不動產價格　千分ノ五

除權利ノ移轉ニ依ル取得ノ場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期間ヲ以テ存續期間ト看做ス

7 地役權ノ取得……要役地價格　千分ノ一

8 華族世襲財產ノ設定……不動產價格　千分ノ二十五

9 先取特權ノ保存又ハ取得……債權金額又ハ不動產企業費用豫算額　千分ノ五·五

10 質權、抵當權ノ取得……債權金額　千分ノ五·五

11 信託ノ登記

所有權ニ付テハ……不動產價格　千分ノ四

所有權以外ノ權利ニ付テハ……不動產價格　千分ノ二

12 競賣、强制管理ノ申立……債權金額　千分ノ五·五

13 假差押、假處分……債權金額　千分ノ四

14 抵當アル債權ノ差押……債權金額　千分ノ五·五

15 相續財產ノ分離

所有權ニ付テハ……不動產價格　千分ノ五·五

所有權以外ノ權利ニ付テハ……不動產價格　千分ノ一

16 滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ揭ケサルモノ……債權金額　千分ノ四

17 抹消シタル登記ノ回復……不動產每一箇　金四十錢

18 假登記……不動產每一箇　金四十錢

18 附記登記……不動產每一箇　金二十錢

但シ一件ニ付稅額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス

20 登記ノ更正、變更又ハ抹消……不動產每一箇　金二十錢

但シ一件ニ付稅額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

2 船舶ニ關スル登記（第三條）

1 相續ニ因ル所有權ノ取得……船舶價格　千分ノ三

2 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得……船舶價格　千分ノ三十五

3 前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得……船舶價格　千分ノ二十三

4 委付……船舶價格　千分ノ三

5 所有權ノ保存……船舶價格　千分ノ三

6 賃借權ノ取得……船舶價格　千分ノ一

7 抵當權ノ取得……債權金額　千分ノ五·五

8 信託ノ登記

所有權ニ付テハ……船舶價格　千分ノ三

所有權以外ノ權利ニ付テハ……船舶價格　千分ノ一

9 競賣ノ申立……債權金額　千分ノ五·五

10 假差押、假處分……債權金額　千分ノ四

11 抵當アル債權ノ差押……債權金額　千分ノ五·五

12 滯納處分ノ制限ニ依リ處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ニシテ特ニ揭ケサルモノ……債權金額　千分ノ四

13 登記證書ヲ提出セスシテ受ケタル特別登記ノ登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於ケル登記……船舶每一箇　金一圓

14 抹消シタル登記ノ回復……船舶每一箇　金四十錢

15 假登記……船舶每一箇　金四十錢

16 附記登記……船舶每一箇　金二十錢

17 登記ノ更正、變更又ハ抹消……船舶每一箇　金二十錢

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

3 信託財產タル不動產又ハ船舶ヲ委託者ヨリ委託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記

1 委託者カ元本ノ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ收益ノ受益者ナル信託

不動產……不動產價格　千分ノ四

船舶……船舶價格　千分ノ三

2 委託者又ハ受託者ノ信託ノ本テ外カニ以シ元ノ委託者トナル信託ノモノ

不動產……不動產價格　千分ノ四十五

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ハ收益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ……不動產價格　千分ノ二十五

船舶……船舶價格　千分ノ三十五

3 委託者ノ本テ外カニ以シ元ノ委託者トナル信託ノモノ

不動產……不動產價格　千分ノ四十五

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ハ收益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ……不動產價格　千分ノ二十五

船舶……船舶價格　千分ノ三十五

前項第二號又ハ第三號ノ信託ノ登記事項ヲ變更シタル爲前項ノ信託ニ付信託ノ變更ノ登記ヲ受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記（第三條ノ四）

不動產……不動產價格　千分ノ四十五

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ハ收益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ……不動產價格　千分ノ二十五

船舶……船舶價格　千分ノ三十五

受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ不動產又ハ船舶ヲ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ前項ニ該當スル場合ノ外登錄稅ヲ課セス

5 鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿登錄（第三條ノ五）

1 抵當權ノ取得……債權金額　千分ノ一

1,2信託ノ登錄……債權金額　千分ノ一

2 强制競賣、强制管理ノ申立……債權金額　千分ノ一

3 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每一件　金二圓

6 工場財團登記簿、鑛業財團登記簿又ハ漁業財團登記簿ノ登記（第三條ノ六）

1 抵當權ノ取得……債權金額　千分ノ一

2 信託ノ登記……債權金額　千分ノ一

3 競賣、强制管理ノ申立……債權金額　千分ノ一

4 假差押、假處分……債權金額　千分ノ一

5 抵當アル債權ノ差押……債權金額　千分ノ一

6 滯納處分ノ制限ニ依リ處分以外ノ原因ニシテ特ニ揭ケサルモノ……債權金額　千分ノ一

7 抹消シタル登記ノ回復……每一件　金二圓

8 假登記……每一件　金二圓

9 附記登記……每一件　金二圓

10 登記ノ更正、變更又ハ抹消……每一件　金二圓

7 船籍ノ登錄（第四條）

1 新規登錄……每十噸　金五十錢

2 轉籍……每十噸　金十錢

3 除籍……每十噸　金五錢

4 登錄ノ變更……船舶每一箇　金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

8 商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ノ登記(第六條)

1 合名會社、合資會社設立	財産ヲ目的トスル出資ノ價格	千分ノ五 (但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ二十圓トス)
2 合名會社、合資會社出資增加	財産ヲ目的トスル增出資ノ價格	千分ノ五
3 株式會社設立	拂込株金額	千分ノ五 (但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ二十圓トス)
4 株式會社資本增加	增資拂込株金額	千分ノ五
5 株式會社第二回以後ノ株金拂込	每回拂込株金額	千分ノ五
6 株式合資會社設立	拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格	千分ノ五 (但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ二十圓トス)
7 株式合資會社資本增加	增資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格	千分ノ五
8 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込	每回拂込株金額	千分ノ五
9 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立	拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格	千分ノ一 (但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ二十圓トス)
但シ合併ニ依リ消滅シタル會社又ハ組織變更ニ依ル株金ノ拂込ノ爲ノ出資ノ價格ニ因リ及ヒ合併ニ依リ消滅シタル會社ノ財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ニ因リ超過スル場合ノ合併又ハ組織變更ニ付テハ合併又ハ組織變更ノ當時ノ合併又ハ組織變更ニ因ル增資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ニ因リ超過スル場合ノ合併又ハ組織變更ニ付テハ合併又ハ組織變更ノ當時ノ合併

1 新規登錄

甲種船長	金十五圓	丙種運轉士	金二圓
甲種一等運轉士	金十圓	機關長	金十五圓
甲種二等運轉士	金六圓	一等機關士	金十圓
乙種船長	金十圓	二等機關士	金六圓
乙種一等運轉士	金四圓	三等機關士	金三圓
乙種二等運轉士	金三圓	水先人	金二十圓
丙種船長	金六圓		

2 登錄事項ノ變更……每一件 金五十錢

13 著作權ニ關スル登錄(第十條)

1 著作權ノ移轉

相續……每一件 金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每一件 金五圓

2 著作權ヲ目的トスル質權ノ設定……債權金額 千分ノ五·五

3 前號ノ權利ノ移轉

相續……每一件 金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每一件 金一圓

4 無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登錄……每一件 金二圓

4.2信託ノ登錄……每一件 金一圓

5 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每一件 金二十錢

14 特許ニ關スル登錄(第十一條)

1 特許權ノ移轉

相續……每一件 金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每一件 金十圓

2 實施權ノ設定又ハ保存……每一件 金五圓

3 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定……債權金額 千分ノ五·五

4 前二號ノ權利ノ移轉

相續……每一件 金五十錢

相續以外ノ原因ニ依ル移轉……每一件 金二圓

5 信託ノ登錄……每一件 金二圓

6 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限……債權金額 千分ノ四

7 代理權人ノ選任又ハ代理權ノ登錄……每一件 金五十錢

8 抹消シタル登錄ノ回復……每一件 金五十錢

9 假登錄……每一件 金五十錢

10 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每一件 金五十錢

15 意匠ニ關スル登錄(第十二條)

1 意匠權ノ移轉

相續……每一件 金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每一件 金二圓

2 實施權ノ設定又ハ保存……每一件 金一圓

3 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定……債權金額 千分ノ五·五

4 前二號ノ權利ノ移轉

相續……每一件 金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每一件 金一圓

5 信託ノ登錄……每一件 金一圓

6 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限……債權金額 千分ノ四

7 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登錄……每一件 金五十錢

8 抹消シタル登錄ノ回復……每一件 金五十錢

9 假登錄……每一件 金五十錢

10 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每一件 金二十錢

16 實用新案ニ關スル登錄(第十二條ノ二)

1 實用新案權ノ移轉

相續……每一件 金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每一件 金五圓

2 實施權ノ設定又ハ保存……每一件 金二圓

3 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定……債權金額 千分ノ五·五

4 前二號ノ權利ノ移轉

相續……每一件 金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每	一	件	金一圓
5 信託ノ登錄	每	一	件	金一圓
6 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限	債權金額			千分ノ四
7 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登錄	每	一	件	金五十錢
8 抹消シタル登錄ノ回復	每	一	件	金五十錢
9 假登錄	每	一	件	金五十錢
10 登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每	一	件	金二十錢

17 商標ニ關スル登錄(第十三條)

1 商標權ノ移轉				
相續	每	一	件	金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每	一	件	金十圓
2 信託ノ登錄	每	一	件	金二圓
3 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登錄	每	一	件	金五十錢
4 抹消シタル登錄ノ回復	每	一	件	金五十錢
5 假登錄	每	一	件	金五十錢
6 登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每	一	件	金五十錢

18 鑛業權ニ關スル鑛業原簿ノ登錄(第十四條)

1 試掘權ノ設定	每	一	件	金百圓
2 試掘權ノ變更				
增區又ハ增減區	每	一	件	金四十五圓
減區	每	一	件	金十圓
3 試掘權ノ移轉				
相續	每	一	件	金十圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每	一	件	金四十五圓
4 採掘權ノ設定				
新規登錄	每	一	件	金二百圓
鑛區合併	每	一	件	金五十圓
鑛區分割	設定鑛區每一箇			金五十圓
5 採掘權ノ變更				

鑛區訂正	每	一	件	金五十圓
增區又ハ增減區	每	一	件	金百圓
減區	每	一	件	金二十圓
6 採掘權ノ移轉				
相續	每	一	件	金二十圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每	一	件	金百圓
7 抵當權ノ設定				
新規登錄	債權金額			千分ノ五·五
鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定	每	一	件	金五圓
8 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更	每	一	件	金十圓
9 抵當權ノ移轉				
相續	每	一	件	金五圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每	一	件	金十圓
10 信託ノ登錄	每	一	件	金十圓
11 共同鑛業權者ノ脫退	每	一	件	金五圓
12 滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限	債權金額			千分ノ四
13 廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅	每	一	件	金五圓
14 抹消シタル登錄ノ回復	每	一	件	金四十錢
15 假登錄	每	一	件	金四十錢
16 登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每	一	件	金二十錢

19 砂鑛業ニ關スル砂鑛業原簿ノ登錄(第十五條)

1 砂鑛權ノ設定				
新規登錄	採取區域	河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄		金十五圓
砂鑛區合併	每	一	件	金三圓
砂鑛區分割	設定鑛區每一箇			金三圓
2 砂鑛權ノ變更				
增區	採取區域	河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄		金十五圓
減區	每	一	件	金一圓

但シ增區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

3 砂鑛權ノ移轉

相　續……每　一　件　金五圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金十五圓

4 抵當權ノ設定

新規登錄…債權金額　千分ノ五·五

砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定……每　一　件　金五圓

5 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更……每　一　件　金十圓

6 抵當權ノ移轉

相　續……每　一　件　金五圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金十圓

7 信託ノ登錄……每　一　件　金五圓

8 滯納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限……債權金額　千分ノ四

9 廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅……每　一　件　金一圓

10 抹消シタル登錄ノ回復……每　一　件　金四十錢

11 假登錄……每　一　件　金四十錢

12 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每　一　件　金二十錢

20 漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ノ登錄(第十五條ノ二)

1 漁業權ノ移轉

相　續……每　一　件　金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金五圓

2 漁業權ノ持分ノ移轉

相　續……每　一　件　金四十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金一圓

3 入漁權ノ設定……每　一　件　金三圓

4 入漁權ノ保存……每　一　件　金五十錢

5 入漁權ノ移轉

相　續……每　一　件　金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金二圓

6 入漁權ノ持分ノ移轉

相　續……每　一　件　金二十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金五十錢

7 賃借權ノ取得

相　續……每　一　件　金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル取得……每　一　件　金二圓

8 先取特權ノ保存又ハ取得……債權金額又ハ工事費用豫算金額　千分ノ五·五

9 抵當權ノ設定又ハ移轉

設　定……債權金額　千分ノ五·五

相　續……每　一　件　金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉……每　一　件　金二圓

10 信託登錄……每　一　件　金二圓

11 競賣、强制管理ノ申立……債權金額　千分ノ五·五

12 假差押、假處分……債權金額　千分ノ四

13 抵當アル債權ノ差押……債權金額　千分ノ五·五

14 滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ揭ケサルモノ……債權金額　千分ノ四

15 抹消シタル登錄ノ回復……每　一　件　金四十錢

16 假登錄……每　一　件　金四十錢

17 附記登錄……每　一　件　金二十錢

18 登錄ノ更正、變更又ハ抹消……每　一　件　金二十錢

20 法人ノ合併ニ因ル不動產又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ付登記(第十六條)

法人ノ合併ニ因ル法人ノ權利取得……不動產又ハ船舶ノ價格　千分ノ三

但シ他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ本條ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少ナキトキハ其ノ稅額ニ依ル

債權金額ニ依リテ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノ又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做シ先取特權、質權、抵當權又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少ナキトキハ其ノ目的タルノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス但シ抵當アル債權ノ差押ヲ登記又ハ登錄スル場合ニ於テハ差押ヘラルヘキ債權ノ額又ハ質權若ハ抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少ナキトキハ其ノ最少ナキモノヲ以テ債權金額ト看做ス(第十六條ノ二)

ニ定規ノ條二十二百第法記登產動不ニ次順テ於ニ所記登ルス異ニ轄ヲ管
ニ依ル登記ヲ受クル場合ニ於テ各登記所ニ於テ受クル登記ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ヲ限度トシ既ニ登記ヲ受ケタル債權金額ヲ債權ニ付テハ登記ノ順序ニ依リ其ノ順位ヲ定ム(第十六條ノ三)看做ス

○明治二十九年三月法律第二十七號ヲ以テ登錄稅法ヲ制定シ同年四月一日ヨリ施行ス(稅率略ス)

登錄稅法ハ登記法、商法、版權法、特許法、戶籍法、地租條例、土地臺帳規則其ノ他ノ法令ニ依リ特定事項ノ登記又ハ登錄ヲ請フ者ニ對シ登錄稅ヲ課スル場合ニ於テ課稅ノ方法ハ定額稅ニ依ルモノト比例稅ニ依ルモノトノ二種アリ

印紙貼用ノ法ヲ用ヰ勅令ヲ以テ現金徵收ノ例外ヲ認メタリ

○明治三十年三月法律第三十一號ヲ以テ戶籍ノ登錄ニ登錄稅ヲ課スルコトハ之ヲ經驗ニ徵シテ戶籍ノ不正確ヲ來シ人事統理ノ基礎ヲ紊亂スルノ虞レアルヲ認メ戶籍登記ニ關スル登錄稅ヲ廢止ス

○明治三十二年三月法律第六十號及同年同月法律第八十三號、同三十四年四月法律第二十六號及同三十五年二月法律第八號ヲ以テ各稅率ノ改正アリ

○明治三十七年四月法律第三號非常特別稅法ヲ以テ不動產、船舶、商事會社、商號及鑛業ニ關スル登錄稅ヲ增徵ス

○明治三十八年一月法律第一號ヲ以テ非常特別稅法ニ改正ヲ加ヘ登錄稅ノ增徵率ヲ定ム

○明治三十八年一月法律第九號、同年三月法律第五十七號、同第五十八號、同三十九年四月法律第三十五號、同四十二年三月法律第十四號、同四十二年四月法律第三十一號ヲ以テ各稅率ノ改正アリ

○明治四十三年三月法律第十一號ヲ以テ一部改正(同年四月一日ヨリ施行)シ非常特別稅法中登錄稅ニ關スル規定ヲ廢止ス

○明治四十三年三月法律第六十四號ヲ以テ輕便鐵道法、漁業法等ノ制定ニ伴ヒ本法ノ一部ヲ改正シ漁業權又ハ入漁權ニ關スル免許漁業原簿ノ登錄事項ヲ追加ス

○大正三年三月法律第二十一號ヲ以テ船舶ニ關スル登錄稅其ノ他不適當ト認ムルモノアリシニ依リ一部稅率ヲ改正シ同年十一月十五日ヨリ施行ス

○大正七年三月法律第十四號ヲ以テ財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ノ登記ニ關スル登錄稅ヲ廢止シ同年三月二十五日ヨリ施行ス

○大正十年四月勅令第百七十一號ヲ以テ登錄稅法ノ一部ヲ同年四月二十六日ヨリ樺太ニ施行ス

○大正十一年四月法律第四十六號ヲ以テ信託法ノ制定ニ伴フ事項ヲ改正追加シ大正十二年一月一日ヨリ施行ス

○大正十三年七月法律第十五號ヲ以テ復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル社債ノ登記ニハ登錄稅ヲ課セサル旨ヲ規定シ公布ノ日ヨリ施行ス

○大正十四年三月法律第二十一號ヲ以テ漁業財團抵當法ノ制定ニ伴ヒ漁業財團登記簿ニ登記ヲ爲ス場合ノ登錄稅ヲ追加シ同年七月一日ヨリ施行ス

○大正十四年三月法律第二十一號ヲ以テ重要輸出品工業組合同聯合會及輸出組合ニ對シ登錄稅ヲ免除スル旨ヲ規定シ同年九月一日ヨリ施行ス

○昭和二年三月法律第六號ヲ以テ登錄稅法中改正シ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

其ノ要領次ノ如シ

1. 不動產及船舶ニ對スル登錄稅

(1)賣買ニ因ル所有權ノ取得、不動產價格千分ノ三十五ヲ千分ノ三十三ニ船舶、船舶價格千分ノ二十五ヲ千分ノ二十三ニ輕減ス

(2)遺言贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得、不動產、不動產價格千分ノ六十ヲ千分ノ四十五ニ船舶、船舶價格千分ノ五十ヲ千分ノ三十五ニ輕減ス

(3)神社、寺院、及公益法人ノ無償名義ニ因ル不動產所有權ノ取得、不動產價格千分ノ三十ヲ千分ノ二十五ニ輕減ス

(4)信託財產ニ付キ不動產信託ノ登記千分ノ五、當初委託者ヨリ受託者ニ所有權ヲ移ス場合ニ於テ贈與ノ場合ト同シク不動產ニ在リテハ千分ノ六十船舶ニ在リテハ千分ノ五十ノ稅率ヲ課シタルヲ信託登記ニ付テハ稅率ヲ輕減シ信託財產ノ移轉ニ付テハ信託ノ內容ニ依リ稅率ヲ區分スルコトトシ下ノ如ク改正ス

イ、信託ノ登記、不動產、不動產價格千分ノ五ヲ千分ノ四ニ

ロ、信託財產ニ付受託者ノ所有權ノ取得

委託者以外ノ者カ全部ノ利益ヲ受クルトキ、不動產、不動產價格千分ノ四十五、船舶、船舶價格千分ノ三十五委託者カ元本ノ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者カ收益受益權者ナルトキ、不動產、不動產價格千分ノ四船舶、船舶價格千分ノ三

委託者カ收益受益權者ニシテ委託者以外ノ者カ元本ノ歸屬權利者ナルトキハ課稅セス但シ其ノ信託財產ヲ受託者ヨリ歸屬權利者ニ移轉スルトキニ於テハ、不動產、不動產價格千分ノ四十五船舶、船舶價格千分ノ三十五

ハ、信託ノ目的ノ變更竝受益者ノ變更等ノ場合ニ關シ規定ス

(5)賃借權ノ取得ハ地上權、永小作權ノ取得ト其ノ稅率ヲ同クシ下ノ如ク改正ス

存續期間十年以下	不動產價格千分ノ一	存續期間七十年以下	不動產價格千分ノ十
同二十年以下	同千分ノ二	同百年以下	同千分ノ十五
同三十年以下	同千分ノ四	同百年ヲ超ユルモノ	同千分ノ二十
同五十年以下	同千分ノ七		

存續期間ノ定メナキモノニシテ民法第二百六十八條、第二百七十八條又ハ借地法第二條ノ規定ノ適用アルモノ不動產價格千分ノ四、其他ノ不動產賃借權ニシテ存續期間ノ定メナキモノ不動產價格千分ノ一

相續ニ因リ取得スル場合ニシテ其ノ稅率千分ノ五ヲ超ユル場合ニハ千分ノ五トス

2.先取特種ノ保存、取得及質權、抵當權ノ取得等ノ稅率債權金額千分ノ六ヲ千分ノ五・五ニ輕減ス

3.法人ノ合併ノ場合ニ於ケル登錄稅

(1)合併ニ因ル設立又ハ資本ノ增加、拂込株式金額又ハ出資價格千分ノ二ヲ千分ノ一ニス但シ合併當時ノ拂込金額又ハ出資ノ價格ヲ超過スル部分ニ付テハ設立ノ場合ニ準シテ課稅ス

(2)合併ニ因ル權利ノ取得、不動產又ハ船舶價格千分ノ五ヲ千分ノ三ニ輕減ス

4.下ノ場合ニ於テハ免稅ス

(1)命令ノ定ムル所ニ依リ住宅又ハ住宅用地ニ付住宅組合員若ハ產業組合員カ其ノ所屬ノ組合

ヨリノ所有權ノ取得

(2)農業倉庫ハ又農業組合聯合農業倉庫ノ其ノ敷地ノ取得

(3)自作農ノ維持創設ノ施設ノ合組産業村市町縣府道ニ關スル補助金ノ交付ヲ受ケテ行フ産業事業ノ資本ニ充ツル爲ニスル抵當權ノ取得

(4)前號ノ場合又ハ住宅ノ供給ニ關シ道府縣市町村産業組合ノ諸事業ノ爲ニスル抵當權ノ取得

(5)市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ之ノ財産ノ分割ニ因リ市町村若ハ其ノ一部ノ共有財産ノ分割若ハ其ノ一部ノ權利ノ取得又ハ其ノ分割若ハ之カ爲ニスル市町村若ハ其ノ一部ノ權利ノ取得又ハ其ノ一部ノ市町村若ハ一カ所ニ止マル場合ヲ除ク內村內ニ於ケル肥料製造ノ奬勵政策上輸入原料品ヲ用ヒ命令ヲ以テ指定シタル肥料ヲ製造シタルトキハ輸入稅ノ全部又ハ一部ヲ拂戻スコトトシ又自國ニ於ケル肥料製造ノ奬勵政策上輸入原料品ヲ用ヒ命令ヲ以テ指定シタル肥料ヲ製造シタルトキハ輸入稅ノ全部又ハ一部ヲ拂戻スコトトシ關稅定率法ヲ改正シ同年十一月一日ヨリ施行ス

○明治三十九年九月勅令第二百六十五號ヲ以テ關稅定率法ノ規定ニ依リ製造品、輸入原料品及之ニ對スル拂戻稅ノ率ヲ定ム(明治三十九年十二月勅令第三百十四號、同四十二年十月勅令第二百二十四號、同四十三年十二月勅令第四百三十九號同四十四年七月勅令第百九十七號、大正三年五月勅令第百二號、同四年十一月勅令第二百八號、同五年四月勅令第百十號、同五年十月勅令第二百二十五號ヲ以テ改正アリ)

(大正十年五月勅令第二百三十八號ヲ以テ同年六月一日ヨリ本令ヲ廢止ス)

○明治三十九年九月勅令第二百六十六號ヲ以テ關稅定率法ノ規定ニ依リ輸入稅ノ拂戻ヲ爲スヘキ肥料製造用ニ供スル輸入原料品及之ニ對スル拂戻金ノ率ヲ定メ且拂戻金下付ノ手續ヲ規定ス(明治四十年四月勅令第百五十九號、同四十四年七月勅令第百九十八號、大正三年五月勅令第四三號、大正四年十一月勅令第二百九號、同五年四月勅令第百十一號ヲ以テ改正アリ)

(大正十年五月勅令第二百三十八號ヲ以テ同年六月一日ヨリ本令ヲ廢止ス)

○明治四十年三月法律第二十九號ヲ以テ關稅定率法中一部ヲ改正ス

○明治四十一年二月法律第四號ヲ以テ關稅定率法中一部ヲ改正シ同年九月一日ヨリ施行ス

○同年同月法律第五號ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表中ヲ改正シ日本大博覽會出品貨物ニ對スル關稅ヲ免除ス

○明治四十一年三月法律第三十四號及同四十二年三月法律第四十一號ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表中ヲ改正ス

○明治四十三年四月法律第五十四號ヲ以テ關稅定率法ヲ改正シ同年七月勅令第三百十三號ヲ以テ同四十四年七月十七日ヨリ施行ス

○明治四十三年八月勅令第三百三十一號ヲ以テ朝鮮ヨリ內地、臺灣及樺太ニ移入スル貨物ニ輸入稅ト同率ノ移入稅ヲ課ス

○明治四十五年三月法律第八號及同第九號ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表中稅率ヲ改正ス

○大正二年四月法律第十七號ヲ以テ朝鮮ニ產出スル米及籾ニ對スル移入稅ヲ廢止シ同年七月一日ヨリ施行ス

○明治四十四年五月公布(英國)、同年七月公布(獨國)、同四十五年二月公布(佛國)、大正二年六月公布(伊國)ノ條約ヲ以テ特殊ノ協定稅率ヲ設ケ同四十四年七月十七日(英、獨)同四十五年二月二十九日(佛)、大正二年六月十八日(伊)ヨリ夫々實施セリ

○大正三年三月法律第三十六號ヲ以テ關稅定率法別表輸入稅表中ニ改正ヲ加ヘ同年四月十五日ヨリ施行ス

○大正三年九月法律第四十四號ヲ以テ輸入稅率等ノ特例ニ關スル件ヲ定ム卽左ノ如シ

關稅

(明治四十三年四月法律第五十四號關稅定率法)

○稅率 (ス略省ニ茲テ以ヲルナ滌浩)

○關稅ノ起源ハ慶應二年五月英、佛、米、蘭ノ四箇國ト締結セシ條約ニ基因シ其ノ後慶應二年五月英、佛、米、蘭ノ四箇國ト締結セシ改稅約書ニ依リ輸出輸入トモ總テ從價五分ノ五トス本トシタル日錄ニ依リ徵稅シ來リ爾來各種箇々ニ付數次稅率ノ改正ヲ經タリ

○明治三十年三月法律第十一號ヲ以テ關稅定率法ヲ制定シ同年一月一日ヨリ施行ス又同年七月限リ條約改正ノ結果輸出稅ハ自然全廢ニ歸シタリ

二十二月八年三正大ハテシニ對シ告申入輸ニ迄日末月三年四正大テシニ物貨入輸(一)
ス課ヲ稅入輸ル依ニ率稅ノ一同ト率稅ルス用適テ於ニ合場タル爲シヲ告申入輸ニ日
テ付ニモノニスルヲ來到限期ノ出輸再ニ迄日十三月七年四正大テシニ品物ルヲセラ免ヲ稅入輸(二)
トス日末月七年四正大ハ其ノ期限
○大正五年三月法律第九號ヲ以テ關稅定率法中及別表輸入稅表中ニ改正ヲ加ヘ同年四月勅令第百

○明治四十三年八月勅令第三百三十一號ヲ以テ朝鮮ヨリ入港スル船舶ニ對シ噸稅ヲ課ス

○大正九年八月法律第五十號ヲ以テ明治四十三年八月勅令第三百三十一號(朝鮮ヨリ入港スル船舶ニ噸稅課稅)ヲ廢止ス

震災被害者ノ租稅減免

○明治二十五年六月法律第一號ヲ以テ明治二十四年十月二十八日三重縣、愛知縣、滋賀縣、岐阜縣、福井縣ノ震災地方租稅特別處分法ヲ制定シ震災被害地ニ對シ地租徵收方ニ關スル特別ノ處分方ヲ制定ス

○明治二十八年四月法律第二十九號ヲ以テ明治二十七年十二月二十二日山形縣ノ震災ニ對シ租稅特別處分法ヲ制定ス

○明治三十年三月法律第二十二號ヲ以テ明治二十九年八月三十一日秋田縣、岩手縣ノ震災ニ對シ租稅特別處分法ヲ制定ス

○大正十二年九月勅令第四百十號ヲ以テ關東地方大震災被害者ニ對スル租稅減免等ニ關スル緊急勅令ヲ制定シ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　政府ハ震災被害者ノ納付スヘキ大正十二年分ノ第三種所得稅及營業稅ニ付各納稅者ノ被害ノ狀況ニ應シ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條　政府ハ震災地ニ於テ大正十二年度ニ納付スヘキ左ノ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

1. 地　租
2. 所得稅
3. 營業稅
4. 相續稅

第三條　第一條ノ震災被害者及前條ノ震災地ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○大正十二年九月勅令第四百十三號ヲ以テ勅令第四百十號震災被害者ニ對スル租稅減免等ニ關スル施行勅令ヲ制定シ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　大正十二年勅令第四百十號第三條ノ規定ニ依リ震災地及震災被害者左ノ如ク定ム

1. 震災地

東京府(西多摩郡及小笠原島ヲ除ク)

神奈川縣

埼玉縣(秩父郡、兒玉郡及大里郡ヲ除ク)

千葉縣　千葉市、千葉郡、市原郡、東葛飾郡、君津郡、安房郡

山梨縣　中巨摩郡花輪村、東八代郡富士見村、南巨摩郡鰍澤町、南都留郡明見村、中野村、忍野村

靜岡縣　沼津市、田方郡、駿東郡、賀茂郡

2. 震災被害者

大正十二年九月一日ノ震災(之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム以下同シ)ニ依リ損害ヲ受ケタル者

第二條　震災被害者中政府ノ決定シタル所得金額一萬圓以下(同居ノ戶主又ハ家族ノ分ト合算額ニ依ル)ノ者ニシテ自己(同居ノ戶主又ハ家族ヲ含ム)ノ所有ニ係ル其ノ住宅又ハ家財ノ過半カ震災ニ因リ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルモノニ付テハ大正十二年分第三種ノ所得ニ對スル所得稅ヲ免除ス

第三條　震災被害者ニシテ前條ニ該當セサルモノノ大正十二年分第三種ノ所得ニ付テハ政府ノ決定シタル所得金額中ヨリ左ノ金額ヲ控除シ其ノ殘所得金額ニ付所得稅法第二十三條ノ規定ヲ適用ス

1. 所得稅法第十四條第一項第六號ノ所得ノ基因タル自己所有ノ家屋其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具、商品、原料品等カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ損害見積金額
2. 自己(同居ノ戶主又ハ家族ヲ含ム)ノ所有ニ係ル其ノ住宅又ハ家財カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタルトキハ左ノ金額

甲　住宅又ハ家財ノ過半カ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルトキ

所得金額中一萬圓以下ノ金額(同居ノ戶主又ハ家族ノ分ト合算額ニ依ル以下同シ)ノ全部

同　一萬圓ヲ超エ二萬圓以下ノ金額ノ八割

同　二萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ六割

同　五萬圓ヲ超エ十萬圓以下ノ金額ノ四割

同　十萬圓ヲ超ユル金額ノ二割

乙　住宅又ハ家財ノ損害甲ノ程度ニ達セサルモ其ノ損害著シキトキ

所得金額中一萬圓以下ノ金額(同居ノ戶主又ハ家族ノ分ト合算額ニ依ル以下同シ)ノ五割

同　一萬圓ヲ超エ二萬圓以下ノ金額ノ三割

同　二萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ二割

同　五萬圓ヲ超ユル金額ノ一割

丙　住宅又ハ家財ノ損害乙ノ程度ニ達セサルトキ

所得金額中一萬圓以下ノ金額(同居ノ戶主又ハ家族ノ分ト合算額ニ依ル以下同シ)ノ二割

同　一萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ一割

3. 第一號又ハ前號ノ規定ノ適用ヲ受クル者所得稅法第十四條第一項第一號又ハ第六號ノ所得ニ付震災ノ影響ニ依リ收入ノ全部又ハ大部分ヲ得ルコト能ハサルニ至リタルトキハ當該所得ノ三分ノ一ニ相當スル金額

前項第二號ノ場合ニ於テ同居者一人毎ノ控除金額ハ各其ノ所得金額ニ按分シテ之ヲ計算ス

震災被害者カ所得ノ基因タル自己所有ノ家屋ニ住居スル場合ニ於テハ其ノ選擇ニ依リ第一項第一號又ハ第二號ノ規定ヲ適用ス

同一人ニシテ山林所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第四條　所得稅ヲ適用セス

第五條　第三條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シ殘所得金額八百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ免除ス所得稅法第二十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　震災ニ因リ所得稅法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ決定シタル大正十二年分第三種所得金額ノ所得金額ノ不明ト爲リタルモノニ付テハ政府ハ所得調査委員會ニ諮問シテ其ノ所得金額ヲ確定スヘシ

第七條　震災被害者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ大正十二年分營業稅第二期分ニ相當スル稅額ヲ以テ營業稅法第二十九條ノ其ノ年分營業稅額ト看做ス

1. 營業ノ用ニ供スル家屋、其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具等ノ全部又ハ大部分カ震災ニ因リ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルトキ
2. 商品及原料品ノ全部又ハ大部分カ震災ニ依リ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルトキ

前項ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課シタルモノニ付テハ各營業場ヲ通シテ之ヲ適用ス但シ營業稅法第十五條第二項ノ規定ニ依リ各營業場毎ニ之ヲ適用ス

第八條　前條ノ規定ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受ケタル者ニ付テハ第一期分ニ相當スル稅額ヲ以テ營業稅法第二十九條ノ其ノ年分營業稅額ト看做ス

第九條　震災被害者ノ大正十二年分營業稅ニ付營業稅法第二十九條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ營業ノ用ニ供スル自己所有ノ家屋、其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具等カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタル損害ノ見積金額ヲ營業稅法施行規則第五十五條ノ經費ト看做ス

第十條　震災ニ因リ營業稅法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ決定シタル大正十二年分營業稅課稅標準ノ不明ト爲リタルモノニ付テハ政府ハ營業稅調査委員會ニ諮問シテ其ノ課稅標準ヲ確定スヘシ

第十一條　第二條、第三條又ハ第七條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ營業稅ノ免除又ハ輕減ヲ受ケムトスル者ハ被害ノ狀況及損害見積金額ヲ記載シタル申請書ヲ大正十三年一月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ提出スヘシ

震災當時ニ於テ納稅地カ震災地ニ在リタル納稅者ニシテ被害ノ事實顯著ナルモノニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依リ所得稅又ハ營業稅ノ免除又ハ輕減ヲ爲スコトヲ得

第十二條　政府ハ第三條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタルトキハ其ノ殘所得金額ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十三條　本令ニ依ル所得稅又ハ營業稅ノ免除又ハ輕減ニ關スル處分ニ對シ不服アルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十四條　震災地ニ於テ納付スヘキ地租、所得稅(第二種所得稅ヲ除ク)營業稅及相續稅(第二種所得稅ヲ除ク)ノ徵收ヲ猶豫シ大正十二年十一月一日以後ニ於テ大藏大臣其ノ納期限ヲ定ム

震災地ニ於テ納付スヘキ地租、所得稅(第二種所得稅ヲ除ク)營業稅及相續稅ニシテ大正十二年十月三十一日迄ニ納期限ノ到來スルモノニ付テハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十二年十一月一日以後ニ納期限ノ到來スルモノニ付テハ政府ハ營業稅調査委員會ニ諮問シテ其ノ課稅標準ヲ確定スヘシ

○大正十二年十月第四十號三十三百四第勅令年二十正大テ以ヲ號六十二第令省令藏大月十二年十正大ニ定ノ條四十第

依リ震災地ニ於テ大正十二年度ニ納付スヘキ地租、所得稅、營業稅及相續稅ノ徵收猶豫ノ稅方ヲ定メ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　大正十二年勅令第四百三十三號第十四號第一項ノ規定ニ依リ徵收ヲ猶豫シタル租稅ノ納期限ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大正十二年分ノ第三種所得稅第一期分ニ在リテハ大正十三年五月三十一日限其ノ他ノ租稅ニ在リテハ大正十二年十二月二十日限トス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ノ大正十二年分地租ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年六月一日ヨリ同年十二月十五日迄ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス但シ第三號ノ宅地ノ地租ニ付テハ納稅義務者ノ申請ナキ場合ニ於テモ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

1. 震災ニ因リ自己ノ住宅ノ過半カ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタル者ノ所有スル土地
2. 荒地又ハ收穫皆無地トナラサルモ震災ニ因リ著シク收穫ノ減損スルニ至リタル田畑
3. 震災ニ因ル被害激甚ニシテ別ニ指定スル市區村內ノ宅地

第三條　震災ニ因リ地租名寄帳ノ滅失シタル市區町村ノ大正十二年分地租ニ付テハ地租名寄帳改訂後一年以內ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第四條　大正十二年分第三種ノ所得ニ對スル所得稅ノ徵收猶豫ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

1. 震災被害者ノ所得稅ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年五月一日ヨリ大正十四年二月二十八日迄ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス但シ被害ノ事實顯著ニシテ所得稅ノ減免ヲ受クヘキコト明カナルモノニ付テハ納稅義務者ノ申請ナキ場合ニ於テモ之ヲ猶豫スルコトヲ得
2. 震災ニ因リ所得金額ノ不明トナリタルモノニ付テハ大正十三年十月一日ヨリ大正十四年七月三十一日ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第五條　大正十二年分營業稅ノ徵收猶豫ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

1. 震災被害者ノ營業稅ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年三月三十一日限之ヲ徵收ス但シ被害ノ事實顯著ニシテ營業稅ノ減免ヲ受クヘキコト明カナルモノニ付テハ納稅義務者ノ申請ナキ場合ニ於テモ之ヲ猶豫スルコトヲ得
2. 震災ニ依リ課稅標準ノ不明トナリタルモノニ付テハ大正十三年五月三十一日限之ヲ徵收ス

第六條　震災被害者ノ大正十二年度ニ於テ納付スヘキ左ノ租稅ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依ル被害ノ狀況ニ應シ五年以內ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

大正十二年八月三十一日迄ニ終了シタル事業年度分ノ第一種所得稅

大正十二年八月三十一日迄ニ開始シタル相續ニ對スル相續稅(延納年賦金ノ大正十二年度分年割額ヲ含ム)

第七條　第二條、第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ徵收猶豫ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ左ノ期限迄ニ所轄稅務署長ニ申請書ヲ提出スヘシ

1. 畑租、雜地租、第三種所得稅及營業稅ニ付テハ大正十二年十一月二十日限

2. 宅地租第一期分竝相續及税及所得税一種第一期納期限ノ到來シタル日ヨリ三十一日迄ニ納付スヘキ地租ニ付テハ大正十二年十一月三十日限

3. 田租ニ付テハ大正十二年十二月十五日限

4. 宅地租第二期分ニ付テハ大正十二年十二月二十八日限

5. 其ノ他ノ諸税ニ付テハ納税告知書ヲ受ケタル日ヨリ七日以内

市町村ニ於テ徴収スヘキ租税ニ付テハ前項ノ申請書ハ納税地ノ市區町村ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

第八條　前條ノ申請書ニハ納税義務者ノ住所又ハ居所氏名、税目、納期區分及左ノ事項ヲ記載スヘシ

1. 地租ニ在リテハ大字、字、地番、地目、段別、地價及被害狀況但シ第二條第一項第一號ノ場合ニ於テハ各大字、地目毎ノ筆數段別及地價ノ合計ヲ記載スルヲ以テ足ル

2. 其ノ他ノ租税ニ在リテハ其ノ課税標準額、税額、被害狀況及震災當時ニ於ケル納税地

○大正十二年十二月大藏省告示第百五十五號ヲ以テ大正十二年大藏省令第二十六號第二條第三號ノ規定ニ依ル市區町村ヲ指定ス

其ノ告示次ノ如シ

大正十二年大藏省令第二十六號第二條第三號ノ規定ニ依リ左ノ市區町村ヲ指定ス

東京府	東京市	麹町區	神田區	日本橋區	京橋區
		芝區	下谷區	淺草區	本所區
		深川區			
	荏原郡	羽田町			
	北豐島郡	南千住町	王子町	日暮里町	三河島町
		尾久町			
神奈川縣	横濱市				
	橘樹郡	大師町	田島町	潮田町	保土ヶ谷町
	横須賀市				
	三浦郡	浦賀町	逗子町		
	高座郡	藤澤町	茅ヶ崎町		
	鎌倉郡	川口村	腰越津村	戸塚町	鎌倉町
	中郡	平塚町	大山町	秦野町	
	足柄上郡	松田町	川村		
	足柄下郡	小田原町	足柄村	酒匂村	大窪村
		湯本村	温泉村	箱根町	元箱根村
		蓋湯村	早川村	眞鶴村	國府津村
		宮城野村	片浦村		
	愛甲郡	厚木町			
千葉縣	安房郡	北條町	那古町	船形町	館山町
靜岡縣	田方郡	熱海町	伊東町		
	駿東郡	御殿場町	小山町		

○大正十三年二月勅令第二十一號ヲ以テ震災被害者ノ營業税課税標準算定ノ特例及地租第一種所得税及相續税ノ徴收猶豫方ヲ定メ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　營業税ノ課税標準ヲ前年ノ實績ニ依リ計算スヘキ場合ニ於テ大正十二年九月一日ノ震災(之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム)ニ因リ營業ノ狀況激變シ課税標準中著シク減損スヘシト認メラルモノアルトキハ大正十三年分營業税ニ限リ豫算ヲ以テ其ノ課税標準ヲ算定ス

前項ニ該當スル營業者ハ速ニ當該課税標準ノ豫算ヲ政府ニ申告スヘシ

第二條　政府ハ大正十二年勅令第四百十號第二條ノ震災地ニ於テ大正十三年四月一日ヨリ同年八月三十一日迄ニ納付スヘキ左ノ租税ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

1. 地租
2. 第一種所得税
3. 相續税

○大正十三年三月大藏省令第五號ヲ以テ大正十三年勅令第二十一號第二條ノ規定ニ依リ震災地ニ於テ納付スヘキ地租、第一種所税得及相續税ノ徴收猶豫方ヲ定メ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

大正十三年勅令第二十一號第二條ノ規定ニ依リ震災地ニ於テ納付スヘキ地租、第一種所得税及相續税ノ徴收猶豫方左ノ通定ム

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル地租ニ付テハ納税義務者ノ申請ニ依リ其ノ徴收ヲ猶豫シ大正十三年十二月一日ヨリ同月十五日限之ヲ徴收ス但シ第二號ノ地租ニ付テハ納税義務者ノ申請ナキ場合ニ於テモ其ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

1. 荒地又ハ收穫皆無地トナラサルモ震災ニ因リ著シク收穫ノ減損スルニ至リタル田ノ大正十二年分田租第四期
2. 大正十二年大藏省令第二十六號第二條第三號ノ規定ニ依リ指定シタル市區町村内ノ宅地ノ大正十三年分宅地租第一期

第二條　震災ニ因リ地租名寄帳ノ滅失シタル市區町村ノ大正十二年第四期分田租及大正十三年第一期分宅地租ニ付テハ地租名寄帳改調後一年以内ニ於テ税務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徴收ス

第三條　震災被害者ノ大正十三年四月一日ヨリ同年八月三十一日迄ニ納付スヘキ左ノ租税(大正十二年勅令第四百十號第二條ノ規定ニ基キ徴收ヲ猶豫セラレタルモノヲ除ク)ニ付テハ納税義務者ノ申請ニ依リ被害ノ狀況ニ應シ五年以内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

1. 大正十二年八月三十一日迄ニ終了シタル事業年度分ノ第一種所得税
2. 大正十二年八月三十一日迄ニ開始シタル相續ニ對スル相續税(延納年賦金ノ年割額ヲ含ム)

第四條　第一條及第三條ノ規定ニ依リ徴收猶豫ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ左ノ期限迄ニ所轄税務署長ニ申請書ヲ提出スヘシ

1. 田租ニ付テハ大正十三年四月十五日限
2. 宅地租ニ付テハ大正十三年六月十五日限
3. 第一種所得税及相續税ニ付テハ納税告知書ヲ受ケタル日ヨリ七日以内田租及宅地租ニ付

テハ前項ノ申請書ハ納税地ノ市區町村ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

第五條　前條ノ申請書ニハ納税義務者ノ住所、氏名、稅目、被害狀況及左ノ事項ヲ記載スヘシ

1. 田租及宅地租ニ在リテハ大字、字、地番、地目、段別及價格

2. 第一種所得稅ニ在リテハ當該事業年度ノ期間及稅額

3. 相續稅ニ在リテハ相續開始ノ日、被相續人ノ氏名及稅額

○大正十三年七月法律第四號ヲ以テ震災被害地ノ地租免除ニ關スル法律ヲ制定シ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　大正十二年九月一日ノ震災(之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム)ニ因リ著シク利用ヲ妨ケラレタル土地ニシテ地租條例第二十條ノ規定ノ適用ナキモノニ付テハ其ノ實況ニ應シ命令ノ定ムル所ニ依リ大正十二年ヨリ五年以內其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得但シ大正十二年宅地租第一期分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　政府ハ大正十二年勅令第四百十號第二條ノ震災地ニ於テ大正十三年九月一日以後ニ納付スヘキ左ノ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

1. 地租

2. 第一種所得稅

3. 相續稅

○大正十三年八月大藏省令第二十號ヲ以テ大正十三年法律第四號施行方ヲ定メ公布ノ日ヨリ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ被害ノ實況ニ應シ宅地ニ在リテハ大正十二年ヨリ三年以內其ノ他ノ土地ニ在リテハ大正十二年ヨリ五年以內地租ヲ免除ス但シ大正十二年宅地租第一期分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

1. 水路若ハ溜池ノ破壞又ハ排水ノ便ヲ失シ又ハ井戶ノ湧水渾濁等ニ因リ灌漑ヲ害シ收穫ヲ減損スルニ至リタル田畑

2. 地下ノ變動等ニ因リ水持ヲ害シ又ハ濕地ト爲リ收穫ヲ減損スルニ至リタル田畑

3. 建物ノ過半ヲ滅失又ハ倒壞シタル宅地

4. 地盤ノ變動又ハ交通ノ障碍等ニ因リ營業ノ狀況容易ニ回復シ難キ地方ノ宅地

5. 其ノ他震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ケラレタル土地

第二條　前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ大正十三年九月十五日迄ニ納稅義務者ノ住所氏名被害地ノ大字、字、地番、地目、段別、地價及被害ノ狀況ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ

第三條　左ノ市町村內ノ宅地ニシテ震災ニ因リ建物ノ過半カ燒失シタルモノニ付テハ前條ノ申請ナキ場合ニ於テモ其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得

東京府　東京市
　北豐島郡　南千住町　日暮里町　三河島町

神奈川縣　橫濱市
　橫須賀市
　鎌倉郡　腰越津村　鎌倉町

中郡　秦野町

足柄下郡　小田原町　眞鶴村

愛甲郡　厚木町

千葉縣　安房郡　船形町

第四條　第二條ノ申請アリタル土地ニ付テハ被害調査中地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條　震災ニ因リ地租名寄帳ノ滅失シタル市區町村內ノ地租ニシテ地租名寄帳改調迄ニ納期ノ到來スルモノニ付テハ其改調後一年以內ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第六條　震災被害者ノ納付スヘキ左ノ租稅(大正十二年勅令第四百十號第二條又ハ大正十三年勅令第二十一號第二條ノ規定ニ基キ徵收ヲ猶豫セラレタルモノヲ除ク)ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ被害ノ實況ニ應シ五年以內ノ延納ヲ許可スルコトヲ得但シ大正十八年八月三十一日ヲ過クルコトヲ得ス

1. 大正十二年八月三十一日迄ニ終了シタル事業年度分ノ第一種所得稅

2. 大正十二年八月三十一日迄ニ開始シタル相續ニ對スル相續稅(延納年賦金ノ年割額ヲ含ム)

第七條　前條ノ規定ニ依リ徵收猶豫ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ納稅告知書ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ納稅義務者ノ住所、氏名、稅目、被害ノ狀況及左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ

1. 第一種所得稅ニ在リテハ當該事業年度ノ期間及稅額

2. 相續稅ニ在リテハ相續開始ノ日、被相續人ノ氏名及稅額

○昭和二年三月法律第十七號ヲ以テ北丹後地方ニ於ケル震災被害者ニ對スル租稅ノ免除猶豫等ニ關スル法律ヲ制定シ公布ノ日(昭和二年三月二十九日)ヨリ之ヲ施行ス

本法制定ノ理由及其ノ條文次ノ如シ

今回ノ北丹後地方ニ於ケル震災ハ先年ノ關東大震災ニ亞ク大災害ニシテ國稅納稅者ノ損害ヲ受クル者相當ノ數ニ上リ或ハ住宅家財ヲ失ヒ或ハ營業用ノ資產商品等ヲ灰燼ニ歸セシムル等非常ノ慘害ヲ來シ租稅ノ負擔力モ大ニ減損シタレハ之レカ救濟方法トシテ本法ヲ制定シタルモノナリ

第一條　政府ハ昭和二年三月七日ノ震災(之ニ伴フ火災ヲ含ム以下同シ)ニ因ル被害者ノ震災地之ニ於テ納付スヘキ大正十五年(昭和元年)分第三種所得稅第四期分ニ付命令ノ定ムル所ニ依リテ免除スルコトヲ得

第二條　政府ハ震災ニ依リ著シク利用ヲ妨ケラレタル土地ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得

第三條　政府ハ震災地方ニ於テ納付スヘキ昭和二年分ノ第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及乙種資本利子ニ限リ課稅ニ關スル申告及申請竝課稅標準ノ決定ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第四條　政府ハ震災地ニ於テ昭和二年三月七日以後ニ納付スヘキ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條　第一條、第三條及前條ノ震災地ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ免除セラレタル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シ

テハ免除セラレサルモノト看做ス

前項ノ規定ハ前項ノ税ノ附加税タル市町村税震災ニ因リ免除セラルル直接府縣税ノ附加税タル国税ノ附加税タル市町村税及其ノ他ノ直接市町村税ニシテ震災ニ因リ免除セラレタルモノニ付之ヲ準用ス

第七條　土地調貸価格審査委員會法第二十二條ノ期限ハ昭和二年十二月二十日トス

○昭和二年三月大藏省令第六號ヲ以テ昭和二年法律第十七號震災被害者ニ對スル租税ノ免除猶豫等ニ關スル施行方ヲ定メ公布ノ日(昭和二年三月三十一日)ヨリ之ヲ施行ス

其ノ條文次ノ如シ

第一條　昭和二年法律第十七號第五條ノ規定ニ依リ震災地ヲ左ノ如ク定ム

京都府　與謝郡　中郡　竹野郡　熊野郡

第二條　震災(昭和二年三月七日ノ震災及之ニ伴フ火災ヲ含ム以下同シ)ニ因リ自己(同居ノ戸主又ハ家族ヲ含ム)ノ所有ニ係ル其ノ住宅又ハ家財ニ付キ損害ヲ受ケタル者ノ震災地ニ於テ納付スヘキ大正十五年(昭和元年)分第三種所得税第四期分之ヲ免除ス

前項ノ規定ニ依ル免除ヲ受ケムトスル者ハ被害ノ狀況ヲ記載シタル申請書ヲ昭和二年五月三十一日迄ニ所轄税務署ニ提出スヘシ

被害ノ事實顯著ナル者ニ付テハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ税務署長ハ其ノ認ムル所ニ依リ第一項ノ規定ニ依ル免除ヲ爲スコトヲ得

第三條　震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ケラレタル土地(地租條例第二十條ノ規定ニ該當スルモノヲ除ク)ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルモノニ付テハ被害ノ實況ニ應シ震災地ニ在リテハ昭和二年ヨリ三年以内其ノ他ノ土地ニ在リテハ昭和二年ヨリ五年以内其ノ地租ヲ免除ス

1. 水路若ハ溜池ノ破壞又ハ井戸ノ湧水涸渇等ニ因リ灌漑又ハ排水ノ便ヲ失シ收穫ヲ減損スルニ至リタル田畑
2. 地下ノ變動等ニ因リ水持ヲ害シ又ハ濕地ト爲リ收穫ヲ減損スルニ至リタル田畑
3. 建物ノ過半カ滅失又ハ倒壞シタル宅地
4. 地盤ノ變動又ハ交通ノ障碍ニ因リ營業ノ狀況容易ニ回復シ難キ地方ノ宅地
5. 其ノ他震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ケラレタル土地

前項ノ規定ニ依ル免除ヲ受ケムトスル者ハ土地ノ番號、地目、反別、地價及被害ノ狀況ヲ記載シタル申請書ヲ昭和二年六月三十日迄ニ納税地ノ町村ヲ經由シテ所轄税務署ニ提出スヘシ

第四條　震災ニ因リ地租條例第二十條又ハ前條ノ規定ノ適用ヲ受クル田ニ付テハ大正十五年(昭和元年)分地租第三期分ヨリ其ノ地租ヲ徵收セス

第五條　震災ニ因リ所得額著シク減損スヘシト認メラルル者ノ震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分第三種所得税ニ付テハ所得税法第十四條第一項第六號ノ所得ハ豫算ヲ以テ之ヲ算定ス

第六條　自己(同居ノ戸主又ハ家族ヲ含ム)ノ所有ニ係ル其ノ住宅家財所得基因タル家屋又ハ其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具等カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタル損害ノ見積金額ハ震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分第三種所得税ノ所得金額(同居ノ戸主又ハ家族ノ分ト合算額)ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ同居者一人毎ノ控除額ハ各其ノ所得金額ニ案分シテ之ヲ計算ス

同一人ニシテ山林所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足スルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第七條　震災ニ因リ營業ノ純益著シク減損スヘシト認メラルル者ノ震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分個人ノ營業收益税ノ純益金額ハ豫算ヲ以テ之ヲ算定ス

第八條　營業用ニ供スル自己所有ノ家屋其ノ他ノ築造物、船舶、機械器具等カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタル損害ノ見積金額ハ震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分個人ノ營業收益税ノ純益金額ヨリ之ヲ控除ス

第九條　第六條又ハ第八條ノ規定ノ適用ノ結果所得金額千二百圓(同居ノ戸主又ハ家族ノ分ト合算額)ニ滿タサルニ至リタル者又ハ純益金額四百圓ニ滿タサルニ至リタル者ニハ所得税又ハ營業收益税ヲ課セス

第十條　震災地ニ於テ納付スヘキ昭和二年分乙種資本利子税ニ付テハ資本利子金額カ第六條ノ規定ノ適用ノ結果ニ依ル山林所得以外ノ所得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ資本利子金額ヨリ之ヲ控除ス

第十一條　震災地ニ於テ納付スヘキ所得税、地租、相續税酒造税及織物消費税ニ付テハ左ノ期限迄其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

1. 昭和二年三月六日迄ニ終了シタル事業年度分ノ第一種所得税　昭和四年三月三十一日限
2. 大正十五年(昭和元年)分第三種所得税第四期分　昭和二年十二月二十日限
3. 大正十五年(昭和元年)分田租第三期分　昭和二年八月三十一日限
4. 大正十五年(昭和元年)分田租第四期分　昭和二年十二月二十日限
5. 昭和二年三月六日迄ニ開始シタル相續ニ對スル相續税(延納年賦金ノ年割額ヲ含ム)昭和四年三月三十一日限
6. 大正十四酒造年度分酒造税第四期分　昭和三年五月三十一日限
7. 昭和二年三月七日ニ織物消費税法第五條ノ規定ニ依リ徵收ヲ猶豫セラレタル織物消費税　昭和三年三月三十一日限

第十二條　震災ニ因リ地租各寄帳ノ滅失シタル町村内ノ地租ニシテ納付未濟ニ係ルモノ及地租名寄帳改訂迄ニ納期限ノ到來スルモノニ付テハ其ノ改訂後一年以内ニ於テ税務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第十三條　第一種所得税及相續税ニ付第十一條ノ規定ニ依リ徵收猶豫ヲ受ムトスル者ハ納税告知書ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内(本令施行前納税告知書ヲ受ケタル者ニ在リテハ本令施行後十五日以内)ニ申請書ヲ所轄税務署ニ提出スヘシ

前項ノ申請書ニハ税目、被害ノ狀況及左ノ事項ヲ記載スヘシ

1. 第一種所得税ニ在リテハ當該事業年度ノ期間及税額
2. 相續税ニ在リテハ相續開始ノ日、被相續人ノ氏名及税額

第十四條　震災地ニ於テ納付スヘキ第三種所得税、個人ノ營業收益税及乙種資本利子税ニ關シ昭和二年三月十五迄ニ爲スヘキ申告及申請ニ付テハ其ノ提出期限ヲ宮津税務署所轄内ニ在リテハ昭和二年五月十五日トス

ニ稅子利本資種乙及稅益收業營ノ人個稅得所種三第ノ分年二和昭キヘスト付納テ於ニ地災震
ノ項前ハテ於ニ合場ルタルシ來ヲ更變リ依ニ令本付ニ請申及告申ルタルシ爲ニ前行施令本シ關
期限ノ之ニ迄カ更正ノ申告及申請ヲ爲スヘシ
第六條又ハ第八條ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケクヘキ額金積見害損ハ得所ノ申告ノ又ハ益純ノ申
ニ之ヲ記附テシ申告スヘシ
第十五條　峰山稅務署所轄內所得調查委員會ニ付テハ所得稅法第一十五條ノ期限ヲ昭和二年
ス ト日十三月六リ限ニ

……(終)……

昭和三年三月十三日印刷

昭和三年三月十七日發行

大藏省主稅局

印刷者　石丸祐正

東京市京橋區鈴木町二番地

印刷所　東亞印刷株式會社

東京市京橋區鈴木町二番地

1795-1